
魔法少女リリカルなのは～最弱の転生者～

Syura

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔法少女リリカルなのは～最弱の転生者～

【NZコード】

N1895U

【作者名】

Syura

【あらすじ】

落ちてきた鉄骨から親子を救い死んでしまった弱野　強志は不思議な声を聞いた後魔法少女リリカルなのはの世界に転生させられる

そこでおこる数々の事件それに強志は巻き込まれてしまつ

プロローグ（前書き）

どうも *your* a です

友達が書けつてつるをくじ

でも書きたかったのは本当ですかよ?
あとアンケート終了です

今回も一票も来なかつた…

プロローグ

俺は、弱野 強志

あだ名はザコ、もしくはリア充
よく不良にからまれたり

なぜか女の子に囲まれたりするたぶん普通の中学生

そしてある日僕は工事現場の前で小さい子がお母さんと歩いているのを見かけた

(微笑ましいな)

そんな事を考えているとその親子の上の鉄骨が落ちてきた
近くにいたため2人を突き飛ばしたはいいが…

鉄骨に潰されてしまった

その時不思議な声が聞こえた

(死ぬには若すぎる

違う世界に転生してやるつ)

その声の後意識を失った

プロローグ（後書き）

さてさてただのプロローグですよ?
さあー死んでこいー強志!

強志

「何で死ななきゃいけないんだよ！
ていうか死んだよ！」

見た目？

男の娘（笑）

ついでに性格はネタ多めですよ?
今回はそんな事しませんでしたけどね

第一話 マジですか…（前書き）

第一話！

この先の展開？
考えてません

第一話 マジですか

強志
「ん……」

目が醒めると全く知らない場所にいた

強志
「森?」

何か不思議な所だなあ

(助けて…)

やばこやばこ、幻聴なんて…
ゲームのしすぎかな?

この頃セリフだけのシーンで声が聞こえてくるし

まあ、とつあえずすべき事は

強志
「家に帰る?」

でもどうに行けばいいのやひ…

ん?

(フフ)

強志

「…………」

後ろを向くとそこには

強志

「尻尾？」

何ですか？虎ですか？

怖いなあ…

恐る恐る下を向くと

強志

「……虎であつて欲しかつた…」

俺のだった

何で俺に尻尾はえてんの？

まあ、取りあえず歩いていくしか

(カサツ)

強志

「何だ！？」

葉っぱでも

強志

「位置がちょっと高いよつな…」

も、もしや…

(♪ ピンハ)

耳だ

しかも猫の

これじゃ目立つな…

しかたない…

(キュ)

部活の後だつたからタオル持つてたんだ！
だからそれを巻いたけど…

強志

「ちよつと窮屈だな」

取りあえず今日は「こじがど」なのかを聞いて
その後どこか泊めてくれるところを探そう

+ - - + - - + - - + - - + - - + - - +

「こじがど」のか聞くために町を歩いていたのだが…

「あんた見ない顔だね
越して来たのかい？」

強志

「ええ、まあ」

「やうかい、大変だねえ」

だからなんなんだ…

ここで一つ問題があつた

それは…

地名を知らないといつことは
誘拐されてここに来た
もしくは、記憶喪失の可能性がある
みたいな事になりかねない

よつてここがどこなのかは分からぬままといつことだ

強志

「困った…非常に困つた…」

どうする?アイ ル

しまつた、古いネタをやつてしまつた

とりあえず携帯を

(がさがさ)

あつたあつた、ん?メール?

迷惑メールかな?

しかし!それでも確認するのが俺!

(弱野 強志くんへ

君を魔法少女リリカルなのはの世界に飛ばしました

何もないと不便なので

猫になれる能力と猫と同じような身体能力をプレゼントします

猫耳と尻尾は気にしないでください

B Y神

何ですか?

どうこうことだ?

訳が分かんないんですけど?

(ピピ)

またメールか…

(気になることがあつたらメールしてください

後君のカバンにやくにたつものを入れておきました使ってください

ついでにこの携帯は私の所以外にはメールや電話はできません

B Y 神)

やくにたつもの?

(ガサガサ)

これかな?

見たことのないネックレスが…

(ヒさんにちはマスター)

強志

「喋った！」

剣のような形をしたアクセサリー付きのネックレスが喋った！

なんかやたら説明口調だな…

((((ジー)))

なんか目立ってる…
色々話聞きたいし
わっさの森に行こうかな？

+-+-+ - + - + - + - + - + - + - + - +

強志

「まあ…まあ…」

(マスター、名前をつかってください)

走ったので疲れてるんですけど…

強志

「名前?」

(はい、私にはまだ名前がないのです)

名前つけていつても…

ん? そうだ!

強志

「ガンブレー、アーリーハー、

(……シンバルですね…)

F のスロールの武器だ

スローは好きなキャラだったから

(まあ、悪くはないですね)

強志

「じゅ、決定」

(アルペ)

メールか…

(名前決めてあげたみたいだね)

なぜに知ってるし…

(君の住む家は手配している)

気が利くな

(じゃ、高町家の監視をよみこへ)

なんだつて？高町？
よつするに面候？

(マル)

またメール…

(言い忘れたけど猫を預かってくださいって書いたから猫になつてから行つてね

あと、ガンブレード（笑）に物を収納できるよつてあるからね

（笑）付けんなどちきしょー！

ガンブレード

（では荷物を収納しましたので行きましょー）

わお、いつの間にか荷物が消えてる
すげえなこいつ

強志

「姿変えるつて言つても…
こつかな？よつ！」

普通にできました～（チャンチャカチャカチャカチャン）

パクリとか言つな

+ - - + - - + - - + - - + - - + - - + - - +

ガンブレード

（ここですね）

でかい…

もしかしてお金持つい？

やつた！鰹節食べ放題！

猫みたいとか言つな
猫だけど…

「どうしたの？」

もしかして君が家に来るつて言つてた猫？

ちびっ子ツインテール登場

とりあえず中に入れてもうつか

強志

「『やあ』

どうだ！渾身のものまね！
猫だけなら誰にも負けねえぜ！

「入りたいの？じゃ入りつ！」

我、侵入に成功せり

ガンブレード

「マスター、変なことしないでくださいよ？」

うおー？

いきなり頭の中に声が！

ガンブレード

「念話です

マスターも意識すればできますよ？」

んじゃ試しに

強志

「そんな装備で大丈夫か？」

ガンブレード

「大丈夫だ、問題ない
つて何言わせるんですか」

ガンブレードつてノリがいいな

まあ、とつあえず成功だな

「ん? なのは、その「」は…」

なのは

「家の前にいたの」

なんかイケメンが出てきた

「そりゃ

真っ黒な毛並みと、ネックレス
間違いないな
こいつがれいの猫だ
さ、入れ」

お邪魔

この時俺は知らなかつた

あんなに過酷な毎日をおくるだなんて

ガンブレード

「マスター、顔が気持ち悪いです」

強志

「え? マジで?」

ガンブレード

「はい、二三二三してます」

猫の表情なんてよくわかるな…

俺の過酷な日々はここから始まつた

第一話 マジですか…（後書き）

はい、どうでしたか？

ネタが多い方ですね

僕の小説はネタが少ないのでですから

そして一つ問題が！

リリカルなのはの話殆どしないという事実…

友達にやひうぜーって言わされてそのまま…

とりあえず

まつもの方もよろしくです

第一話 心の友（前書き）

遅くなりました
すいません

Youtubeでアニメ見ながら書いてるもので
原作知識皆無ですから

は？なにこれ？

みたいなことがあるかもしません

第一話 心の友

高町家に居候したその夜

(たつたつたつた)

なのはが走つて外に行つた

強志

「なんか面白そうだな」

ガンブレード

「マスターは好奇心旺盛ですね」

強志

「褒めるなよ」

ガンブレード

「褒めたつもりはありません」

(・・・・)

とにかく」 e t - s go !

+ - - + - - + - - + - - + - - + - - +

なのはを追つて行くと動物病院にきた
すると

(バキ)

木が折れた

強志

「あれなんだ？」

ガンブレード

「わかりませんね」

ついでに人型だ

猫耳+尻尾あるけど…

ん？なのはが出てきた

なのは

「あれ？あなたは？」

(ウオオオオ！)

強志

「なんかヤバげだな…
俺が足止めする！
早く逃げろ！」

なのは

「え！？でも…」

強志

「行け！」

なのは
「はい、あつがと“いざれこまむー」

一回覗いてみたかったんだよ

ガンブレード

「来ますー！」

(オオオオー！)

強志

「よしー・迎え撃つー！」

なのは
「がんばってくださいー！」

まだいたのか…

とつあえずー
必殺！

(フツ)

なのは

「消えたー！？」

(アアー！？)

強志

「おせーべー。
猫パンチ！」

(ボコン)

あれ？

(オオオオー) (カスツ)

強志

「あ～～～れ～～～」

100回ぐらいい飛びそつた勢いで殴られた

なのは +

「弱つーー？」

言われると心が痛い

強くならつ、そう決心したじだい (チュビーン) ギヤース

落下

痛い…でも死んでないのが不思議だ

(バムバム)

携帯？

ガンブレード

「どうぞ、マスター」

そういうや携帯つてお前に預けてたな
ナイス、ガンブレード
えーとなになに?

(一応不死身だよ
痛みは感じるけどね

まあ、ガンバレ)

ひどいツス

痛覚も麻痺させてほしかったツス

ガンブレード

「とりあえず加熱しに行きましょー。」

強志

そのたな

急いでいったのだがちょっと遅かったようで

ついたら警察が来て

さらになんか町がボロボロだつたため

俺がやつたと思われて連れて行かれそうになつたが何とか逃げた

今の速さならF-1にすら負けない自信があるぜ！

とりあえず婆を猫に変えて高町家に帰った

そこには そして俺の布団（猫用）があるなのはの部屋に行つた

強志

「なぜここにある？」

わざわざのフクロウがいた

ガンブレード

「どうせここにいるんだからね」

強志

「それより猫はフクロウを食べるとこうの」と
同じ部屋とか動物への知識の無さがうかがえる】

またつぐ…食べちゃうか?

「ん…わつー?」

あなた達はー?」

強志

「この家の居候です
じゃあ、お休み」

「ちょ、ちょっと待つてー!」

強志

「なに? 眠いんだけど」

あと一〇時間ぐらいしか起きてこられないと

え?長い?

ナンノ「トテスカ？」

「セツキは助けてくれてありがとう」

なぜにバレたし…

強志

「何でわかった？」

「耳と尻尾、それにネックレスが同じだから」

セツキやそうだ

ここまで真っ黒な毛並みで

セツキにネックレスしてた猫なんてセツキのない

強志

「べつにお札を言われるようなことさせてないぞ？」

パンチして返り討ちにされただけだ」

「でもその間になのはに魔法を教える」とが出来ました

あの短時間ならべつに意味ないと思つのは俺だけか？

ガンブレード

「マスターは何もしてませんけどね
どうりで邪魔しかしてません」

強志に死におよぶ
42042ダメージ！

強志

「俺の見方はこの「ホレットだけが…」

ガンブレード

「ですね」

泣ける…

強志

「お前、名前は？」

「え？ ゴーノです」

強志

「これから俺達は心の友と書いてしんゆうだー。」

ゴーノ

「はい！？」

その後一晩中話し続けた

結果

向こうも心友として認めてくれた

ガンブレード

「キモいですね」

強志

「お前つて意外とザックリ言つよな」

ガンブレード

「自分の意志ははつきりさせた方がいいと教えられましたので」

誰に？

そして時は過ぎて日曜日

なのはにも俺があのときの奴だつて話して
なのはとともにコーノに魔法を教えてもらつてきたのだが…

強志

「俺だけ上達が遅いのは氣のせいか？」

ガンブレード

「マスターには才能がありませんからね」

こいつこんな奴だつたつけ…

なのは

「何でクロさんは上達が遅いのかな？」

なぜか俺の名前がクロになつてる件

ユーノ

「クロさんはスピードに特化してるから攻撃系の魔法は苦手なんだ
よ」

クロ（笑）

「スピード特化ならヒットアンドアウェイが基本かな？」

ユーノ

「そうになりますね」

よし、ならガンブレードの形になつてしまつて正解だ
スールのガンブーデはヒットアンドヒットアンドアウェイべり
いがちゅうじに武器だから

あの連続攻撃の速さ！
そこに痺れる！憧れる！

クロ
「じゃあ行くか」

なのは
「やうだね！」

今日はサッカーの試合を見に行くんです
何でもなのはのお父さんが持つてたチームだとか…

ドンだけ金持ちだよ…

(たつたつた)

ん？あの子が持つてゐるの？

クロ

「ねえさみ」

「え？ はー」

クロ

「その持つてゐるやつ見せて」

「は、はい」

やつぱりなのは達が集めてるじゅげむシールド？
なんか危ないらしい…

仕方ない

クロ

「これと交換しない？」

かばんに入つてたダイヤモンド
あの後メールが入つて、困ったときに使えだとわ

「うん！こじょー！」

素直な子は大好きです

「じゃあねー！」

それで向かうとしますか…

（（（わあああー）））

終わつたよつだ

結果はなのはお父さんを持つてるチームの勝ち
そのお祝いでなのはの親がやつてる喫茶店に来た

クロ

「やうこやなのは

なのは
「どうしたの?」

えーと…
あれ?

クロ

「いやなんでもない
先、帰るな」

なのは
「え? うん」

やばい、ひょうひやばい
なくしちまた…

どうでなくしたんだつけ?

たしか受け取つてガンブレード…

クロ

「わたしたよな?」

ガンブレード

「もりりてしません」

ところ」とは…

クロ

「おいら知ーらね」

ガンブレード

「無責任ですね」

それが俺！

暇だな…

ビルの上で日向ぼっこでもしようつかな？

第一話 心の友（後書き）

やつひまつた

まさかの役立たずスキル

これからはセリフの上の名前は通称のまつを書きます

クロ=強志だと思ってください

わたくして次はどうしようかな？

第三話 めれ?お花畑が…（前書き）

タイトルに意味は…
たぶんありません

すいませんね
遅れてしまつて

原作知識皆無すぎるるので動画見てから書いていっているんですが
なかなか見れる時間がなくてですね

その分少し文字多めです

第三話 あれ？お花畠が…

クロ
「A a a a a a a a ! !」

なぜ叫んでるのか？

理由はもう少し前に戻つたらわかると思つ

・ * . 。 - 。 * . . - . .

クロ
「ん…ふああ…あれ？」

目が覚めると木？の上にいました

何ではなくてなかつていうと

クロ
「形きもつ」

形がおかしい

しかもなんか枝に挟まれてるわけです

クロ
「どうにかして抜け出せ……ないな」

ぎつり挟まれてる次第です、はい

クロ

「ガンブレード、どうしたよ？」

ガンブレード

「とりあえず横を見てください」

横？そしてなぜ念話？

クロ

「…………いつぞやのサッカーボー少年」

なぜここにいる？

そしてなぜ光に包まれている？
ん？なんか飛んでる…

桃色の…

クロ

「光？」

ガンブレード

「なのはさんの物のようですね」

何かあつたのかな？

間違いなくこの木だけど

ガンブレード

「マスター、あちらを」

クロ

「え？…………なのは発見
は、いいんだけど…」

先端が桃色に光つてゐるレイジングハート（形が違うよくなー）をこ
っちはむけてゐるよくなー…

クロ

「ガンブレード、俺の田に狂いが無ければ
あの人二つちに砲撃しようつとしてない？」

ガンブレード

「しばらくお待ちください」

待つてゐる余裕ねえつす

ガンブレード

「出ました
矛先は左一三」

左？

そんなどこ光に包まれた少年しか…

クロ

「まざいぞガンブレード」

ガンブレード

「そうですね」

クロ

「少年が女の子に抱きつこてる」

ガンブレード

「は？」

青少年育成法だっけ？こ返すの行為だと悟つ

クロ

「お二人さん、お熱いのはいいけど少し場所を（ズオオオオオ
オー！）」

なんか飛んできましたよ？

+ - - + - - + - - + - - + - - + - - + - - +

そして現在にいたるわけで（ズドオオオオー！）

クロ

「不幸だああああー！」

その時ガンブレードはこう思つたりじい

ガンブレード

（理不況だ…

マスターがしつかりしていれば…
マスターが屋上で寝なれば…）

その後ガンブレードの口調がきつくなつたのはいつまでもない

なのは

「ジユエルシード、封印ー！」

なのはれん

10シートを封印するのもいいけども回復してつかあせこ

なのは

「あれ？クロさん！？」

びひしたの！？そんなにボロボロで！」

あなたのせいです

なのは

「とにかく病院に行くの！」

レツツ病院

なんてのはゴメンだ

クロ

「大丈夫、すぐ直るから」

なのは

「そりはいかないの！」

（ ）

聞き分けない子は嫌いですよ？

なのは

「ああ、行くの！」

なのはさん病院に連れて行くなら肩貸してください

えりの後ろつかんで引きずらないで

病院行く前に手遅れになるから

ユーノ

「なのは、クロさん白目むこてるよ..?」

なのは

「え？ にゃああああ！？」

大丈夫！？」

我が心友よありがとう

もう少しで天使でビーツな世界に旅立つところだつたよ

え？ わからない？

俺も自分でなにいつんのかさつぱり

なのは

「今すぐ連れて行つてあげるからね！」

なら同じ過ちを繰り返さないでください

苦しいです

なのは

「ついたの！」

え？ 早いな

近いとこでも徒歩30分は……

なのは

「さ、入るよ

なぜに動物病院

俺は今人型だ

ユーノ

「なのは、いまクロちゃんは人型だよ？」

いっこ」と言ひづぜ、心友

ユーノ

「猫型になつてもうつてからじやなあや」

前言撤回！

即刻旋回！

能力全開！

脱兎の「」とく！

NE GE LU !

なのは

「逃がさないのー！」

痛い痛いツス

バインド食い込んでる
ちょ、逃げませんから
これ解いてえー

なのは

「はやく猫になるの」

わかつたよ！

わかりましたよ！

なればいいんでしょ！？なれば！

クロ

「クルリンパ」

大変身！

なのは

「じゃ、入るの」

選択肢を間違えた

意地でも変身しないべきだった

俺のこの先オワタヽ(^○^)／

その後？超しみた
え？何がつて？傷が

+ - - + - - + - - + - - + - - + - - + - - +

時は過ぎて夜

クロ

「なあ、ユーノ」

ユーノ

「どうしたの？」

クロ

「理不尽だ…」

ユーノ

「まあ…頑張つて？」

なぜに疑問系…

とりあえず

クロ

「身体強化の魔法とかない？」

ユーノ

「いらないと思つただけど…
まあ、あるじとにありますよ？」

クロ

「じゃ教えてくれ」

ユーノ

「でもまた明日ね」

猫もフェレットも記憶力皆無なんだが…

え？人間？

そういう事は「都合主義

+ - - + - - + - - + - - + - - + - - +

時は流れまして

ただいまなのはが何かの準備をしています

「なのは、早くしろよ」

なのは

「こまこれまーす」

昨日ユーノに聞いた話だと
友達の家に行くらしい

ネコの姿なら来てもいって言われたので俺も行くことにした

理由？金持ちらしいんだ！
ネコもいるらしいからネコとしての立ち振る舞いを教授ねがおつかとも思つてゐる

その方が色々便利でしょ？

評論家とかにあつたらバしゃかねないしな

+ - - + - - + - - + - - + - - + - - +

到着！

クロ

「でかい屋敷だな…」

ガンブレード

「そうですね」

そういうやユーノが言つてたんだけど

デバイス（ガンブレードみたいに魔法を出す補助をしてくれる物）
はしゃべれるのは普通だけど

ガンブレードみたいにしゃべれて念話もできるのは珍しいらしい

クロ

「お前つて普通じゃないんだよな」

ガンブレード

「ええ、『Jの姿も偽りの姿ですし』

へえそつなんだ

クロ

「ってそれマジかー!?」

ガンブレード

「はいマジです」

クロ

「どんな姿なんだ?」

ガンブレード

「人です

容姿にはかなり自身があります」

うわぁナルシストだ

クロ

「頭大丈夫?」

ガンブレード

「失礼ですね

本当のことと言つたままでです」

そこが心配なんだよ

ガンブレード

「ワンピースのナさんに勝てる自信がありますよ~。」

そこまでいったら美的感覚がイカれてるようしか思えません
の人男性票かなり多いからね?

ガンブレード

「まあいざれお見せしますよ」

がっかりする準備をしてお~!~

ガンブレード

「それよつ三人とも入ってこりますよ?」

あ、おいてかないで~

中に入つて進んでいくと

クロ

「ネコだらけ…

ガンブレード

「かなり多いですね…」

そこにはたくさんネコがいた

「なのはー!~ちだよー」

あれがお友達ですか

「」の前見たときも思つたんだけどあの髪地毛なのか？

紫つてありえないだろ

しかもメイドまで紫だし

わいどこのネコに「」教授いただけつかな？

(ルラ ハ)

ユーノ…ヤリにいたのか…
ん?

ユーノ

「キュ…」

ネコに見つかってらあ

ユーノ

「キュ…」

追いかけられてるし

仕方ない、止めてやるか…

クロ

「おーいやめいや」

「」やー。(ザク)

刺さつてる刺さついる

つめの手入れ行き届いてますか？

額にザクリですよ？

四
ノ

「ありがとう、助かつたよ」

傷は気にならないんですか？

ク
口

「困ったときはお互様だろ？」

さて、収まつたことだし外に行くか？

おら知らね

また追つかけられてるし：

+ - - + - - + - - - + - - - + - - - + - - - + -

さてさて家の周りがかなり無効まで森とは「れいかに?

超広い！：

さて戻りますかな？

h
?

(キラン)

もげる二ート？らしき物発見！

クロ

「あれつてもげる」「一トだよな？」

ガンブレード

「何ですかそれ…
ジユエルシードです」

それだ！

ガンブレード

「どうやら本物のようですね」

OKOK今度はなくせないようにな

クロ

「ガンブレード」

ガンブレード

「わかりました」

そしてガンブレードはジュエルキーノ?を回収

できなかつた…

代わりにネコが巨大化した

クロ

「こやああ
「

「いやー、いいやつやるやん！」

ガンブレード

「と、うあえずなのはやん達を…」

なのは

「確かこのへん…」

ガンブレード

「呼ぶ必要がなくなりましたね」

いやーナイススタイルン（デガン）ぐはあー

何？何なの？

いきなり光の玉が飛んできましたよ。

跳んできたほうをみると

クロ

「なのはの色違つたと？」

なのは

「違つた…」

「…………」

え？今あの子なんか這つ（トトトトトトトトトト）してててててててててて
て！

なんか散々だ…

第三話 われ~お花畠が…（後編）

あつはつは
やりすぎたかな？

クロ
「やりやがだ」

よつクロ

クロ
「もう訂正はしない」

なぜ？

クロ
「なかなか気に入ったからだ」

そりなんだ

君も苦労するね

奇行録に飛び入り参加させてやるよ

クロ

「それはむしろ罰ゲームじゃ…」

氣のせいだ
後、強制な

クロ

「不幸だ…」

第四話 もう一人の魔法少女（前書き）

ついにフェイト登場です

なんかやつちまつた感がえりいこつかや

今日はちょっと練習しなきゃやばいんで
早めに更新しました

コーヒー飲みながら書いてたんですけど
インスタントより

喫茶店のほうがかなりおいしいですね

第四話 もう一人の魔法少女

ユーノ

「これは、魔法！？」

ちょっと、俺がフルボッコだドン的なことになってるのに興味そつちに行くわけ？

なのは

「レイジングハート、お願い！」

なのはさんもツスか

クロ

「もういいや…

ネコは俺が守るからお前はあいつを食い止めとけ

なのは

「ありがとう、クロちゃん！」

まったく年上はつらいねえ

クロ

「シールド展開！」

ガンブレード

「イエスマスター」

(キュイン)

アーティストの名前を聞かれて、彼は「アーティスト」と答えた。

ク
口

【いきなりはひどいと思わないか?】

ガンブレード

【シールドまで展開していくで何語でんでですか】

手厳しい一つですね

「...魔道士...」(デウンドエウンドエウ)

ク口

卷之三

(ガガ)

よし今回は…！

(バキ)

ダメだつた：

(ズドン)

ギヤース

「？」

不思議そつな顔してんじゃねえよドチキショウ

視点、なのは

「同系の魔道士…

ロストロギアの探索者か…」

この子も魔道士なの?

もしかしてゴーノくんと同じ世界から?

「バルディッシュ、インテリジェントテバイス

なのは

「バル、ディッシュ?」

もしかしてあの子が持ってるあれの事かな?

「ロストロギア、ジュエルシード…」

(ギュイン)

! 鎌?

「申し訳ないけど…
いただいていきます」 (ギュイン)

こっちに来た!?

避けなきや!

(シユ)

危なかつた

寸前で飛んで避けられた

「……うん！」

鎌の刃が飛んできた！？

(デウン)

ユーノ

「なのはー！」

(ブワ)

危なかつた
何とか防げ…

(ブン)

わ！？

(ガキン)

びっくりした…

なのは

「なんで…なんで急にこんな！」

「答えても…たぶん、意味はない…」

“どうこういふこと？”

なのは

「くつー…」

(ガキン)

(タン)

お互に距離をとり、戦闘体勢に入る

この子はきっと私と同じ年ぐらい…
きれいな瞳、きれいな髪
だけど…この子…

クロ

「手えかそつか？」

なのは

「大丈夫！」

なんとかなりそうかな？

クロ

「そつか」

「…………（バヂヂヂ）…ゴメンね…」

(ドウン)

え！？

なのは

「きや！」

ユーノ

「なのは！」

負け、ちゃつた…

視点、クロ

なのはが吹っ飛んだ！

しかも頭から落ちて行つてるし！？

やばい！

ユーノ
「ふ！」

よかつた…間一髪ユーノが魔法でクッショーン作つたから何とか大丈
夫だ…

「はつ！」

え？（ドウン）

クロ
「アベシー！」

吹つ飛ばされた

「捕獲！」

(バヂヂヂヂヂ)

ネコに向かって雷が飛んでいく

「こやあああ！」

クロ

「巻き添えでやああああ！」

(スウ)

えつと、たしか、ジュエル…シート！
が出てきた

「ジュエルシード、シリアル14…封印」

惜しかった！
ん？なんか上から…

クロ

「アババババババババ！」

もつ...無理...

(ガク)

+ - - + - - + - - + - - + - - + - - + - - +

ん...ん?

クロ

「ルルル...」

そういやちびっ子に吹っ飛ばされて、さらにアバゲシせられたんだ
つけ?

ガンブレード

「やつと起きましたか」

クロ

「おお、ガンブレード」

ガンブレード

「ユーノさんは助けを呼びに行きましたよ?
なんで年下のあなたが伸びてるんですか」

あいつ俺より年下なの?
ぜんぜん知らなかつた

クロ

「とりあえずこの姿だとまづいな
ネコ型になるか」

青狸にはなりませんよ？

ガンブレード

「まったくもづくつとしつかりしたらどうですか？」

この後みつちりと絞られた
きつかつたツス

その後みんなが来て（その時にも念話でみつちりと絞られた）なのは
が運ばれていった

そのとき念話でゴーノにこう言われた

ゴーノ

「今夜特訓だね」

勘弁願いたいものだ

その後なのはが田を覚ました後
家に帰った

+ - - + - - + - - + - - + - - + - - +

ゴーノ

「あれは間違いなく僕と同じ世界の住民だよ」

なのは

「ジユエルシード集めをしてるとまたあのことがぶつかっちゃうのか
な…」

暗い…耐え切れない…

よつて俺が元気付けてやるー！

クロ

「大丈夫だつて！
俺がいるんだし！」

なのは・ユーノ

「「クロさんはむしろ邪魔」」

なんてこつたい…

まさかのカミングアウト

みんな気づいてちゃいるけど言わないとこをすっぱりといいやがった…

みんなは言わないよね！

……なんでみんな目をそらすの？

ちょっとひどくない？

そらしたやつら全員後で面かせや

え？怖くない？

お前弱いから？

それはみんな気づいてちゃ（エンドレス）

クロ

「ちよいなのは
ロープない？」

なのは
「はい、でも何に使うの？」

クロ

「首呴る」

なのは

「絶対ダメえええ！」

いいじやないか

どうせお先真つ暗なんだし…

今行くよ天使達

なのは

「ユーノ君もてつだつてえ！」

ユーノ

「わかつた！」

H A N A S E !

「なのは、うるさいぞ
もう少し静かに」…

なのはお父さん登場＆硬直

「…なのは、ネロに首を呴ひかねな

なのは

「違うのー・クロちゃんが勝手」(ー)

「首を呴るネ」なんていないだろ?」

「…」
なれただ…

なのは
「…」

「貸してみなせ…」

(グイ)

「あー…天使の輪が！
何のこねしき…」

「…簡単にはがれた
首を吊るネ…なんて…」

(△△△)

(ふらーん)

「…いた…」

なのは

「お父さん止めてー…」

(ギヤアギヤア)

「…」

今度はお座りんか

そして家族全員来るまで「」の躊躇は続き
最終的にかゞに詰め込まれた

その中でガンブレードに

ガンブレード

「あなたが死んだら困るんです」

死ねっていうほうだと思ってたガンブレードに「んないと」といわれ
て感激していたら
止めが来た

ガンブレード

「暇つぶしの相手がいなくなりますから」

そこですか… そうですか…

「」で一句

回り見て

なぜか俺だけ

四面楚歌

泣きたい…

第四話 もう一人の魔法少女（後書き）

今皆さん気が思つてゐること書いてましょうか？

「うわあ、爺みたいだ」

どうですか？当たつてますか？

すいませんね、俳句とか時おり思ひつくんですよ

ではここでも一句

被災地の

皆さん元気に

がんばつて

僕ができるのは応援ぐらゝなので取り合えず俳句を送ります

言つるのは簡単なんですが実際は難しいんですね
とにかく！

がんばれ！被災地の皆さん！

がんばれ！俺！

カットビングだ！俺！

すいません調子に乗りすぎました

第五話 もう一度お手本を…（前書き）

あ、氣にしませんか？
さあ、しませんわ

誤字脱字の報告があればできるだけ早く修正しますので報告をお願いします

第五話 めぐらしがれ…

今日は温泉に行くりしいんです！
今日はめぐらしがれー！

ガンブレード

「テンション高すぎです
キモイですね」

すっぴり言われた…

今日だけなのに預けよつかな？

ガンブレード

「もし私を引き剥がそなうなんて考えているならやめたほうがいいですよ？」

なんか考へてること読まれた…

いつもはそんなことしないのに…

ガンブレード

「もし私を誰かに預けたりでもしたら人型になつて平手打ちですよ
？」

クロ

「その程度、痛くもかゆくもないー！」

ガンブレード

「じゃ試してみますか？」

そんなことできるわけな（パン）ヘブン！

クロ

「今何した？」

ガンブレード

「平手打ちです」

それをビリヤッたか聞いてるんだけど…

ガンブレード

「着いたみたいですね」

よしーくつるぐー

雲を聞きながら、

陸に揚げられたクラゲ級にダランとしてやるー

そしてこのところつけたダメージと疲れをとるんだー！

でもちよっと待てよ…

CORE PRIDEも捨てがたい…

え？ しょっちいとこひで間を作るな？
でもみんな期待したでしょ？
ならいいじゃん！

ガンブレード

「顔が麻薬中毒者みたいな顔になつてますよ」

俺、そんなにやばい顔だった？
これからは氣をつけよう
そうだ！

クロ

「お前曲流せる？」

ガンブレード

「一応でやめますよ？」

クロ

「どんな曲がある？」

ガンブレード

「この星にある曲は全てロードしてあります」

さすがは我がデバイス
仕事に抜かりがない

ガンブレード

「 さまざまなお怪談話もロードしてあります」

クロ

「 やめて、夜トイレに行けなくなるから」

本氣でいけなくなるから

夜の風の音でトイレに行けなくなる俺だぜ？

え？びびりますか？

一回火の玉を見たことあるからそれからそういうのダメなんだよ
あれって科学的に出る理由が解明されてるらしい

でも最初に見たのが墓場、しかも夜だったのがアウトなんだ…
しかも小さいときに

だからかなり染み付いてるわけだ

ガンブレード

「 マスターってかなりびびりですよね
ちゃんと 付いてるんですか？」

下ネタはいけませんよガンブレードさん

それに怖い物は怖い

しかも今怖がってる原因はあなたです
えーと

クロ

「 部屋はどこ？」

ガンブレード

「マスターはアフォですね」

オブラーに包もつとしてオブラーを完全に破つてますよ
第一きたことない場所でこんな鬼畜な部屋番探すのに苦労するわ
ついでに今は人型耳と尻尾は帽子とズボンで隠してる
でも尻尾らめえーとかにはなつていなか
なつたら大問題だ

クロ

「1236...」」だな」

部屋数多くない?ロビーから一直線だけロビーがかすむぐらいに
歩いたよ?

しかも両側に部屋があるし
確か一番手前が1001だつたような気がする
他にもこんな感じの長い廊下があるのかな:

クロ

「中広い...」

こりゃ一人で使うには広すぎないかな?

それとも誰か使うのか?

ガンブレード

「マスター、早く準備をしてください
お風呂行きますよ」

クロ

「わかつたわかつた」

つていうかしゃべつていいのか?
一応2人だけだけど…

第一お前が何で風呂を楽しみに…

クロ

「誰?」

ガンブレード

「それはボケですか?」

ああ、なんかみたことあるような…

いやない、絶対FSP2の 力を見たことあるわけがない

ガンブレード

「これならどうですか?」

白い水着に…あ

(詳しくはS yur a一行の奇行録をみてね)

クロ

「なんか今果てしなくダメなものに介入された気がする…」

ガンブレード

「気のせいですよ」

でもほんとに綺麗だよな
オリジナルを超えている
え？オリジナルは何か？

ファ タシースター 一タブル2のミ つて検索してみて
ファンタ 一スター ポ タブル2の カつて検索してみて
大事なことだしわかりやすいので一回言いました

さらにはれを美化したような見た目とかまさに絶世の美女って感じだ

ガンブレード

「準備はできましたね？」

なら行きましょう」

クロ

「拒否権は…」

ガンブレード

「ないです」

ですよねえー

でもだからって襟の後ろもつて引きずらないでほしい
風呂びじるじやなくなるから

+ - - + - - + - - + - - + - - + - - +

ただいま風呂の中

いや～風呂つていいね！

にしても…

クロ

「体すべりシスね」

「そうかい？ 青色々あつてね」

なのはお父さんの体にたくさん傷のあとが
色々つて何があつたんだ…

君、なかなかいい体してるね

クロ

「あ、そうですか？」

いつもなのほど訓練してるから…

「訓練？」

なのはを知つているのかい？

なら、実力のほどを見せてもらいたいね

やべえ、地雷踏んだ

こんなに危なそうな人とバトルとか絶対勝てないよ…

「なんならこじでやるかい？」

それは危ないと思つ

おもに財布が

クロ

「いいんですけど物壊しちゃダメですよっ。」

「 もちろんだ」

そして試合が始まった

フルボッコ

Side、ガンブレード

「 A a a a a a a ……」

隣からマスターの物らしき悲鳴が聞こえますねえ

ユーノ

「 キュー・キュー——！」（ジタバタジタバタジタバタ）

ユーノさんはたしか男性でしたよね？
なんでいるんでしょうか？

まあ、とりあえず私はそういうの気にしませんけど
でも…

ガンブレード

「 寂しいですねえ」

私以外はなのはさんのお知り合いぐらいしかいませんから私だけ1
人なんですよねえ

ガンブレード

「 さて、あがつて準備でもしますか…」

拷問の、
ね

第五話 わくわくが止まってくれ…（後書き）

怖っー？

さて、ガンブレード

ガンブレード

「どうしたんですか？糞作者」

これを受け取れ

ガンブレード

「…………ありがたく受け取ります」

さてさて次回が楽しみだ

クロ

「何か嫌な予感がする…」

第六話 僕ってなんか悪い事した？（前書き）

わたくして感想が来たり

他の作品に比べて人気が出てきてテンションあがつてますよー。

そしてまたやらかしてしまった…

第六話 僕つてなんか悪い事した？

ク
口

A a a a a a a a a a a a a a a a ! !

電流があああ！

電流がああああああ！！

ガンブレード

今こんな事になつてるのは少し前にさかのぼる

ク
口

「なんとか生き延びた…」

ボロボロになつちまつたぜ

その人手加減ななんだもん

あ、部屋についた

「セレナ、どうぞお入り下さい。」

(ガラ)(ピシャ)

い、今何があつた？

(ガラ)

間違いない……あれは……

ケロ
「こたつ…」

そう！ネロの聖地にたつ！
風呂からあがつた後でまだ少し暑いが……

「こたつ」（ズボ）（カチ）

力子？

(ババババババババババババ)

6

ガンブレード

「見事に引っかかつてくれましたね」

+ - - + - - + - - + - - + - - + - - + - - + - - +

現在に至る

ガンブレード

「なかなか性能がいいですね
またまりもに何か送つてもらいましょうか」

あいつが元凶かああああ！！

ガンブレード

「次はこれです」

血まみれトゲトゲバット

エスカリボ グ〜

某天使の撲殺兵器とか死ねる…

ガンブレード

「一瞬ですからね〜（一二口ッ）」

笑顔が怖い笑顔が怖い笑顔が怖い笑顔が怖い
笑顔が怖

（ゴシヤ）

ガンブレード

「ふう、スッキリしました」

クロ

「殺すなあーー！」

ガンブレード

「生きてるじゃないですか」

クロ

「普通だつたら死んでるよ！？」
肩から上にあるはずの物が無くなつてたからね！？」

ガンブレード

「マスターが不死だからこそできる技です」

クロ

「どこの天使が持つてるバットを思いつきり頭部に叩きつけるのが技に入るのか！？」

ガンブレード

「たぶん入ります」

たぶんですか…

そうですか…

にしてもよく生きてたな…

頭部が完全に原型留めてなかつたような気がするんだけど…

もしかしてこれって俺Ｔｕｅｅｅｅｅｅｅｅｅみたいな感じなのでは…

クロ

「ところでそのバット！」から入手したんだ？」

ガンブレード

「とある人物からとだけ答えておきました」

超気になる

でもだいたいはわかつた
後で絶対ぶつ殺す！

まあ、それは置いといて

クロ

「外に行こう」

ガンブレード

「なぜですか？」

クロ

「近くに綺麗な川があるらしいんだよ
そこで釣りでもしようかな?と」

魚がいるらしい

しかも食べられる

ガンブレード

「わかりました

では……（カツ）……こんな感じでビーフしちゃつか？」

いきなり光つて釣竿に変身とか何でもできる人みたいじゃないか
実際そうだけど…

ガンブレード

（カツ）「ああ、行きましょー！」

あ、笑顔

じつは魚が好きだつたりして？
もしくはお腹がすいてるだけ？

+ - - + - - + - - + - - + - - + - - + - - +

到着！

早速釣るぞー！

釣にて釣にて晩飯の代わりにするぞ!!

「マスター、がんばってください」

ବୁଝିବାକୁ ପାଇଁ ଏହାରେ ମଧ୍ୟରେ କିମ୍ବା କିମ୍ବା କିମ୍ବା

数時間後

全く釣れない

ガンブレード

「マスターは下手なんじやないですか?」

それは言わぬ約束

(カツ)

ガンブレード

「マスターは役立たずですね
私が手本を見せます！」

とか言いながら本人は食べたいだけだと思います

で、釣りをはじめようとしてるんだけど…

ガンブレード

「む、虫…」

意外な弱点発見

ガンブレードが人型になつたため竿とえさを買つてきたんだけど…
まさかの弱点

ガンブレード

「わ、私には無理です！」

意外な発言

そんなに虫が苦手なのか…

クロ

「俺がつけてやるうか？」

ガンブレード

「いや、いいです
やめにしましょう」

クロ

「なぜ？」

ガンブレード

「振るときに頭につくかもしれないじゃないですかー！」

そこまで苦手とは…

これはいい情報を入手でき（カアア）田がああー田がああああーー

ガンブレード

「マスター、ジュエルシーードです」

対応早いね…

えつとえさは…あり?

クロ

「えさが…ない…」

ガンブレード

「マスターが嫌みのために使う恐れがあるためせつさの光とともに川に投げ入れました」

そこまで苦手なんだ?

超意外、またガンブレードがあああーみたいなかんそうが来るよ

「ビンゴー!」

なんぞ?

ガンブレード

「あの人はたしか先日の魔法少女のよつですね」

え?たしか

俺をフルボッコにしてくれやつた子だっけ?

クロ

「よしー」の前の恨みい！「

ガンブレード

「マスター、大人気ないです」

うるさいやい！

俺だつて鬱憤たまつてんだ！

クロ

「覚悟おおおおー！」

「敵？」

アルフ

「了解だよ
フェイト」

(バキ)

クロ

「バハまあ！」

負けた…

しかし名前は覚えたぞ！

魔法少女がフェイトで、俺を殴ったほうがアルフだな！

デスノート拾つたら名前書いてやるう！

あ……あれフルネームじゃなきゃダメじゃなかつたっけ？
まあいいや

ん? なのはとユーノが来たな
やつちまえ一人とも!

(バヂヂヂヂヂヂヂヂヂ)

うわあ

なんかすこい戦い…

何でなのはに助けてもらつてるんだろ？

デバイスが補助するんだからユーノがライジングハートを使つたら
絶対強いよね？

あとつあえず

(ドパン)

俺は川でドンブラコしてるから2人とも、後は任せた

第六話 僕ってなんか悪い事した？（後書き）

クロ乙 WWW

クロ

「作者…」

え？ なに？

クロ

「作者専用拷問セット…」

それ誰からもらったの？

クロ

「シェリアなんだ」

違う作品からももらつなか！

そしてシェリアめええ！

シェリア

「まあいいじゃないですか」

なぜここにいるし

そしてそのいい笑顔やめい

シェリア

「いやです」

クロ・シェリア

「「イツツシヨウタイム」」

A a a a a a a a a a a a a a a ! !

第七話 累々闇の虫（前編）

フレシア登場！

わしゃわじゅうじゅう壊していいつかな？

といひでチヨウの部分を で隠したら変態と呼ばれたんですが
何がいけなかつたのか教えて？

第七話 異空間の中

ガンブレード

「マスター、おきてください
マスター」

クロ

「後5時間…」

ガンブレード

「日が暮れます」

的確なつゝこみありがとつ
どつやら三の流れがあまりこもる持ち良かつたので寝てしまつたよ
うだ

クロ

「といつてゐる?」

ガンブレード

「じつせり違ひ空間に飛ぶされたよつですすね

なんかいかにも異空間の狭間ですみたいな所にいるんだが…

マジで?

やばくね?

クロ

「弁当もつてないんだが…」

ガンブレード

「遠足じやありませんよ?..」

そなの?

よかつた今持つてゐるおやつは完全に200円りえでるから

ついでに持つてゐるのはカントリーマム、メンゴス、ポテチップス、
うめえ棒30種それぞれ10本セット、etc

ついでに全部ガンブレードが持つてゐ

「あのあ...」

クロ

「どうした?」

ガンブレード

「私じやありません」

じや誰?

「あのう...私です...」

クロ

「はつはつは、なんだ君か!
にしても君、体が透けててまるで幽霊みたいだね!
はつはつはーふう...」

ガンブレード

+ - - + - - + - - + - - + - - + - - +

四

- 190 () -

ガンブレード

「何がいいわかったか」

「私はクロ一・?」)は異空間一・?」

ガンブレード

かなりはっきりとした記憶ですね。

いや、なんかお約束だからつい。
なんか違う気もするけど……

ク
口

「ついで聞いてくれよ

「そうなんですか」

ナゼココニイル?

やべー... サーバトショウがいた...

ク
口

「我がデバイスよ
後は任せた……」

ガンブレード

「気絶しないでください」

そんな」といつても！

クロ

「だつて！だつて幽霊があああああ……！」

「あの、話聞いてもらつていいいですか？」

クロ

「言つておくが体は駄目だぞ！

俺の体は譲りん！！」

「え？ あ、はい」

「むーなうむじー

クロ

「なんでも言いたまえ」

ガンブレード

「変わり身早いですね」

俺は悟ったんだ…

これはこの子？の話を聞かない限り抜け出す」とが出来ない無限ループに入ったんだと

よつて俺は切り抜ける！

「ではとつあえず説明を
実は…

カクシカジカシカクイムーブ
で私のお母さんと妹を助けてほしいんです！」

なるほど他の車が売れてて全く家の車が売れないから助けてほしい
と

クロ

「そつか、大変だなあ」

ガンブレード

「マスターはバカですか？
理解できぬですよね？」

クロ

「うん」

さつきの文章からして車の話だと悟つたけど、なんか違つ気がして
きた

え？地の文？

ナニソレ、オイシイノ？

ガンブレード

「ですから…………の…………が

だから…………それを…………つて事ですよ」

真面目に聞かなきゃ殺されると野生の勘が叫んでいたので真面目に聞いたところ

「じつや、この子の母親が自分が死んだためにあはは、うふふ、みた
いな事になつてゐるから一発殴つて正氣に戻してほしいと

クロ

「だいたいわかつたかな？」

ガンブレード

「では答え合わせです」

なんか死亡フラグ…

ガンブレード

「私達は何をすればいいでしょ、？」

クロ

「この子の母親を殴る」

ガンブレード

「マスターはバカなんですね
もういいです」

この頃の子は短気でいけない
もう少し柔らかく俺のように

ちょい、今「お前みたいになつたらダメになる」とか言つたやつ
後で顔面ひつかぐぞ？

クロ

「要するにババア一人正気に戻せばいいんだろ?
だったら別に簡単じゃね?」

「ならお願ひします

私は母を見守っていますから」

「ん、じゃな

れて……

どうやって帰るの?

気絶してた日数はたぶんかなり長いだろ?し
もしかしたら俺達忘れられてるかもしねないな

クロ

「とりあえず帰る方法を考えよう

+ - - + - - + - - + - - + - - + - - +

あ~ダメだ

クロ

「帰り方がわからない

ガンブレード

「マスター、あれを

なんか家?らしき物発見さて中に入りますか

ナゼココニバイル？

ガンブレード

「この前の魔法使いですね」

クロ

「なぜここに？」

あれ？ フェイトだけが中に入つてへ…」

使い魔はつき従うんじゃなかつたつけ？
とつあえず行つてみよう

潜入成功

アルフにも気づかれなかつたし
中に入る時も全く気づかれなかつた
まったく、俺の才能が怖いぜ

(ビシイ)

え？ なに？ なにがあったの？

俺が自分の才能に酔つていると何があったのかオバハンがフェイト
を鞭でたたきはじめた

クロ

「やつすかじやね？」

ガンブレード

「たしかにそうですね
止めますか？」

クロ

「これを止めなきゃ人じやねえんじやね？」

虐待はいけないと思つんだ

クロ

「ガンブレード、バトルモード」

ガンブレード

「了解しました」

(キューン)

「な、なにー?」

じゃん!

漆黒の仮面に漆黒のマント
さらに例の姿のガンブレー
ド俺かっけええ!

とりあえず俺だとバレルとやっかいなので
喋り方とか変えて話すことにしまじょつか

クロ

「そなたの娘から言伝を預かって参った

「私の娘?

フェイト、あなたはかあさんを悲しませたいの?

フェイト

「私じゃな」「いいわけはいらないわー」「うー

また鞭でぶつてる

しかたない…

成敗するでゴザル

クロ

「サークルデストラクション!」

自分の周りに円を描くように爆弾を配置し爆破

「やめてこどー。」

たまがしかしな派手な技は田を引くための囮
本命は…

クロ

「まつー。」

「なつー。?」

俺のスピードをいかして相手の後ろに回り込み武器を弾き飛ばす事
み¹」とに決まり相手が持っていた鞭は遠くに飛んでいった

クロ

「チヨックメイト」

「くつー。」

クロ

「なぜこんな事をするの?」

「誰が言つと思つー。」

駄菓子菓子

我がデバイス、ガンブレードの性能は想像を絶する

クロ

「答える」（カチャ）

相手を問い合わせるふりをして相手の首もとにガンブレードを当てる

「私は喋らない」

答えてもらわなくとも大丈夫

ガンブレードは対象の頭部に触れれば相手の脳細胞に干渉し、情報を得ることができる

だから時々思考を読まれるんだ！

ガンブレード

「どうやらビービーを生き返らせるつもりでいるみたいだ

す」

OKOKなら問おつ

クロ

「蘇生は可能か？」

ガンブレード

「1週間ほどかかりますがなんとか本人の意志の強さにもよりますがね」

なるほろなるほろ

じゃあ簡単だ

とつあえず交渉だな

クロ

「なるほどな

理由は理解した

「なに！？」

クロ

「娘の所に連れて行け

時間がかかるかもしぬないが蘇生する事ができる」

「！？それは本当か！？」

クロ

「ああ、だが、必ずしも成功するとは限らない」

「……わかつた、娘の所に連れて行こう

よかつたよかつた

クロ

「そこのお前

その子を連れて行け

そして少しづつでいい

例のものを集めておけ」

アルフ

「例のもの？」

ほら、あの、あれだよ

クロ

「そなたらが今まで集めていたものだ

必要になるかもしねん」

アルフ

「……わかつたわよ……」

OKOK物わかりがいい子は大好きです

さて、この子が…

「アリシア…」

らしい

さて

クロ

「ガンブレード」

ガンブレード

「了解です

マスター

名前呼んだだけでなに言いたいかわかるってすゞくね?

クロ

「じゃ、外行くか」

「なー? 直してはくれないのか!」

クロ

「いや違う

俺がいると気が散るかもしないし
俺にできることは何もない」

もう、完全にガンブレードに頼ってるからね
どのくらいかつて言つと青狸がいる家のあやとり名人ぐらいい

「ならば私も外に出よう」

わかってくれてよかつたよ

なんか危ない人にしか見えないから

クロ

「といひで名前は?」

「プレシアよ

プレシア・テスターッサ

クロ

「何でそこまであの子にこだわるんだ?」

プレシア

「あの子は…」

あの子は私の実験のせいで死んでしまったの…」

うわっ…暗い…

プレシア

「私は仕事で忙しくてなかなかあの子と遊んであげられなかつた
だから早く実験を終わらせて長い休暇をもつてあの子とすゞす氣
だつた」

クロ

「で、その実験が失敗したと」

プレシア

(「クツ」)

「それから私はそのときの実験を利用してフェイトを作つた
でもフェイトはあの子にはなれなかつた
性格も、笑顔も、何もかも…」

なるほどな

クロ

「だからあの子を生き返らせる方法を模索し
ジュゴンシードッグをフェイトに集めさせたのか

プレシア

「ジュゴンシードッグじゃなくてジュエルシードよ
まあそういうことね

フェイトはあの子になれなかつた
だからあの子を道具として使つこととしたの

道具つて…

クロ

「でもフェイトはあんたの期待にこなえよつとした
あんたを、母親を喜ばせたいから」

フレシア

「それが何?
あの子は道具、それ以下でも、それ以上でもない」

「うじょうだねえ

クロ

「本当にやうなのか?

自分でそつ思い込んでるだけじゃないのか?」

フレシア

「しつこいわね」

クロ

「だつてそつだろ?

怒つてるのだつてあいつに期待してたからじゃないのか?」

フレシア

「まあ…そつかもしれないけど…」

よし、もう一押し

クロ

「けどなんだ？」

あいつはあなたのためにがんばった
あいつは母親のあなたに喜んでほしいから」がんばったんだ
その気持ちは否定しちゃいけないと思つぜ？」

フレシア

「でも私はあなたの親じやない…
あの子の生みの親じやないのよ…」

は？なにそれ？

クロ

「関係あんのか？」

フレシア

「え？」

クロ

「生みの親じやなきや親じやないのか？
あんたはあの子をそこまで育てたんだ
胸を張つて育ての親つていえるじゃねえか」

言つてゐるのに間違いがあれば訂正をお願いする

フレシア

「そうよね…

私はあの子を育てたのよね…

ありがとうございました、あなたのおかげでやつと気づけたわ

クロ

「まあ、昔から世話焼きだつて言われてたからね
お礼を言われるよつることはしてないよ」

プレシア

「でも私はあなたがいなきや気つけなかつた
ありがとう」

ハズつ！

なんかめっちゃハズい！

まあとりあえず一件落着？

でもこの時俺はこの後起こることを知らなかつた

フレシア

「うつ！」

クロ

「どうした！？」

いきなり血を吐いた！

適当に終わらせようと思ったらなんか血を吐いた！

フレシア

「アリシアが死んでから体がよくないの……」

クロ

「ちゃんと食べ物食べてるのかー！？」

フレシア

「栄養は補給してるわよ

一日一回栄養を注射で補給してるわよ！」

絶対それが原因だ
絶対、栄養失調だ

クロ

「ちゃんと寝てるのか？」

フレシア

「うやんと寝てるわよ。」

「一日一時間は寝てるし

「もう二日なり4時間ぐらいために寝てるわ

「100%それらしが原因じゃねえか…」

クロ

「今度からは余裕もできたらだし

「一日三食、一日7時間は寝る

「これをしないとアコシアが生き返つても一緒にすこせなってさへ。」

それでもいいのかな?」

フレシア

「それは困るわね

「ちゃんと注射の回数を増やしましょ。」

クロ

「うやんと口から食事しつ

第七話 異空間の母（後書き）

わたくしの展開は予想できましたか？

クロ

「よかったですがねえ」

ですよねえ

はい、せっかくなのでキャラの詳細を発表します！

クロ

「こきなりだな」

いや～皆さんの頭の中の
幻想をぶち壊す…！
つて感じで面白くな〜い？

クロ

「それだから読者が減るんだよ」

(・・・・)

とつあえずクロのプロフィールをピーピー

名前
弱野 強志

年齢

15

身長

164

体重

56

見た目

色白の肌で髪や目、服装はこれでもかといふほど黒い
顔には幼さが残りますにイケメン

好きな物・人

ネコ、コタツ、優しい人

嫌いな物・人

怖い人、女子、犬

特徴

これでもかといふほどネコに近い性格＆オーラ
そのためもとの世界では女子にちやほやされていた
そのためいじめの標的にされていたのもある

クロ

「マジか…」

「そういうわけであつたく読んでない人！
後で後悔するぞ！」

クロ

「そういう人は読んでないと思う

やうこやうだ

れてまた自壊…じゃなかつたまた次回！

初「ラボー魔法少年と七人の使者 その1（前書き）

あまりにも遅くなりそうなので途中で投稿です

クロ

「反省しろ」

書き終わってすぐにデータがパーンして一万文字消えたからブルーな気持ちになつた

クロ

「今日は？」

7000文字だよ？

クロ

「多田だな」

いつもよつはるかにやつよ！
でねじうぞー（・・・）つ

初「ラボー魔法少年と七人の使者 その1

ああ、暇だ
暇で暇すぎて
仕方がない

クロ
「クロ、心の俳句」

ガンブレード
「どこのおじいさんですか」

やはりガンブレードにはネタがわかつたようだ
さすがだな

さて暇だ…
どひじよひへ

クロ

「空から人が降つてきたりしないかなあ」

ガンブレード

「そんな事があつたら大問題です」

ですよねえ~

ついでに今はジュエルシードがどうたらいつたらが終わって暇して
る所です

クロ

「まあ色々あつたけど楽しかったな」

ガンブレード

「そうですね」

「そういやこの公園でガンブレードに頭捕まれたなあ
痛かった…」

クロ

「一度でいいから人が空から無装備ダイブしてるとこ見てみたいな
あ」

ガンブレード

「だからそんな事「A a a a a a ! ! ! 」ありましたね…」

視点、時雨

黒い穴を無視して通り過ぎようとしたら吸い込まれた
その後空から落下してるんだが

そこまではいい

問題は…

時雨

「魔法が使えねえええ！！」

「なんでこうなつた？」

たしかフェイトと買い物に行つてたはずなんだが…

あれ？なんか落ち着いてね？
死ぬときつて落ち着いてるものなんだね

俺が死を覚悟したとき声が聞こえた

「ガンブレード！」

「了解です。マスター」

そちらを見ると「スプレしている男と、なかなか美人な女性がいた

それを見た後意識を失った

視点、クロ

なんか人が落下しているため助けることにした

クロ

「ガンブレード！」

ガンブレード

「了解です。マスター」

やっぱスゴいね～

うちのガンブレード

名前呼んだだけでマットになつたよ

衝撃を吸收する力がえげつないタイプのやつ

(ボフン)

ナイスキヤッチ

あれ？ 気絶してる

よし、家に連れて行こう

+ - - + - - + - - + - - + - - + - - +

やつぱりす」「いね！

連れてくるときにバレるとやつかいだからネロにできないって聞いてみたら普通にできたよ！

どんだけチートなんだよ家のデバイスは…

クロ

「なかなか目を覚まさないな」

ガンブレード

「そうですね」

連れてきて30分ぐらいいたつたかな？
でも田を覚まさないんだよねえ

クロ

「ガンブレードにかやつた？」

ガンブレード

「やつてませんよ？

キヤッчиしたときにグキッて音がしましたけど」

それが原因だ！

「ん…」
「ん…」

あ、ねきた

視点、時雨

時雨

「ん…」
「ん…」

田が覚めるとネコの小屋のような所にいた

クロ

「あ、起きた」

ん？今ネコが喋ったような…
いや、『氣のせい』だな

クロ

「君大丈夫？」

氣のせいでは無かったようだ

時雨

「夢か…おやすみ」

クロ

「夢じやない夢じやない！」

リアルだから！

まじうことなきリアルだからー。」

ネコが日本語ペラッペラな時点でリアルではないこと窺ひ

時雨

「ネコが喋るわけない
よつて夢だ」

クロ

「そのセツフ自分の姿見てからこじらへんない？」（スッ）

すげえな

この頃のネコは鏡を持つてるのか

.....

時雨

「これなあに？」

クロ

「鏡」

まつとうな答えをありがとう

そしてなぜネコが鏡にうつってるんだ？

クロ

「まいひしなきアメシヨだね」

時雨

「だまれ毛玉」

クロ
「酷くない?」

ガングブレード
「間違つてはいないと思こまゆ」

クロ
「マジか…」

ん?今声が…

時雨
「まさかその首輪テバイスか?」

クロ
「あたり

君をその姿にしたのもこいつ」

マジか…

ん?こいつ?

時雨

「お前がやつたんじやないのか?」

クロ
「俺にそんな技術はない」

頭が可哀想な人なのか

クロ

「さうに酷くない?」
「..」

時雨

「地な文読むな」

デバイスがありってことはおそらくなのは世界だらつ
なら一応いつ頃なのか聞いておくべきだな
だがこんな奴は原作にはいなかつたし

とりあえず原作知識無いと問題になるから遠まわしに聞いてみるか..

時雨

「いくつか質問していいか?」

クロ

「OKス

時雨

「プレシアは知っているか?」

クロ

「知ってるよ」

時雨

「ならハ神は?」

クロ

「誰それ?」

時雨

「プレシアは元氣か？」

クロ

「たぶん元氣じゃね？」

牢屋に入ってるけど」

時雨

「そうか」

おそらく無印と△・△の間ぐらいだらう

ヤベH俺超頭回ってる

時雨

「俺の頭のよさに全自分が泣いた」

クロ

「いきなりの不審な発言に全俺が引いた

うつかり声にてたぜ
まあいいか！」

視点、クロ

「こいつ頭大丈夫か？
不審な発言がおおいんだけど…」

クロ

「とこりで名前は？」

時
雨

「俺は時雨だ

お前は？」

クロ

「クロ

本名は忘れた

時
雨

「忘れんなよ……」

てへ

でも仕方ないと思つんだ
常に固定され続けると本能が諦めたんだ

クロ

「とりあえず

「ここでも面白くないので海行け」

時
雨

「いつもひづなのか？」

ガンブレー
ド

「だいたいそりですね」

時
雨

「苦労するな……」

そい、聞こえてるや

+ - - + - - + - - + - - + - - + - - + - - +

海到着！

ついでに転移魔法使ったから一瞬です
誰が使ったかはみなせんご存じの通りです

ところで…

クロ

「なにこれ？」

時雨

「結界だな」

なんでここにあるのかな〜？

ガンブレード

「マスター、ロストロギアの反応があります」

クロ

「マジで？」

ならば速攻で！

クロ

「我関せず」

時雨

「帰るな」

頭ガツされた

痛い痛い

頭蓋骨凹む

アイアンクロウやめてえ〜

ガンブレード

「なにか来ますね」

ちよ、こつちはそれビニルじゃないんですけど
頭の形状がかかつてるんですけど!

(ビュッ)

クロ

「アバババババ！」

痺れびれ〜！

時雨

「よけろよ」

ガンブレード

「やつぱり弱いですね」

父さん、やつとわかったよ

これが四面楚歌つていうんだね
いつも言つてたよね
家では四面楚歌だって

あれ? 父さんなんていったつけ?

(ビュッ)

第2弾!

今度は時雨狙い

時雨

(スツ) 「いつたい誰が(ドガア)やつてるんだ?」

軽く避けた
俺つていつたい

(ビュッ)

クロ

「アババババババ!」

またツスか..

(ビュビュビュビュビュ)

時雨

「あれか?」 (ガガガガガ)

すげえ..

全部防いだ

デバイス使わずに
なんてチート?

俺なんてデバイス使つても防げないよ…

「あれ？君強いね！」

ん？

…………

フェイト？

でもなんか…

クロ

「色違い？」

ガンブレード

「ポケンじやないんですから」

でも白&赤がベースだぜ？

いつもは黒&黄なのに

これを色違いとせずなんとする

クロ

「捕まえて交換に出したらルギ ぐらこならでるかなっ？」

ガンブレード

「だからポケモジやないです」

まあまあかたことぬつなよ

でも雰囲気が違うような…

時雨

「お前は誰だ？」

「あたし？あたしはフルビーー！」

時雨

「目的は？」

ルビー

「強い人の力がいるから何人か殺さなきゃいけないんだって
だから君達も殺すの」

かわいい見た目&言葉使いだけど超物騒なこといつてるよ

ルビー

「だから死んでね？」

これはあれだな

クロ

「正当防衛でいいのかな？」

ガンブレード

「いいと思いまーす」

なら、やつまつせ

クロ

「バトルモード！」

かららーのー

ガンブレード

「ディメンションバスター」

「あは
ルビ」

一
あは
」

(スツカアン)

外した

つてか避けられた。」

「バーン」
ルビ

俺の「死亡」フラグ立ててく、真っ赤なレーザー

（一）ワンドン（一）

時雨

「大丈夫か？」

ク
口

「大丈夫だ、問題ない」

死にかけたけどネタつて大事だと思うんだ

時雨

「ボロボロで何を言ひ」

あ、ホントだ
服がビッシリビリだ
ところで…

(カアア／＼／＼)

敵さんの顔が赤いのと、極太レーザーがこっちに飛んできてるのは
気のせいだと思った(ズドオオオオオ!) ギャース

リアルには目を背けちゃいけないね

時雨
セブテン・トリーキス・リトウス・ルーキス
「光の精霊千一柱
コエウンドース
サギテント・イニミクム
集い来たりて敵を討て!」

何これ？呪文か何か？

時雨
サギタ・マギカ
「魔法の射手連弾、光の1001矢!！」

ルビー

「にや！？」

すげえ量の光の矢
でも…

クロ

「俺当たるんじゃね？」

ガンブレード

一回避不能ですね
私はダメージは受けませんけど」

マジで?.

「俺は？」

「ダメですね」
ガングブレード

クロマジで？

500CONBO-!!

ルビ

「…おおせ」

K
Ö
!

俺もだけど

+ - - + - - + - - - + - - + - - - + - - - + - - +

クロ

「やつぱり縛つとくべきかな？」

ガンブレード

「動きを封じる上ではいかもしてくれませんね」

時雨

「俺は休む

ラテン語ムズイ」

ですよねえ

クロ

「じゃガンブレードは魔法が使えないよつひとこと
俺が縛つとくから」

ガンブレード

「変なことしないでくださいよ~」

クロ

「しないしない」

（数分後）

完璧

時雨

「やつぱりやつぱりや~」

ガンブレード

「マスターは変態ですね

なぜに?

後ろで手首を縛つて

足首縛つて

二の腕と胴体を縛つて

ひざあたりを縛つて

足首と手首を結んだだけだよ?

クロ

「やりすぎたかな?」

ガンブレード

「加減ぐらいは覚えてください」

「だっていつも負けてるから加減なんて忘れた
こいつがって必死なんだよ!」

クロ

「ついでに色はあくヒゲ^{ガス}ブー!」

ガンブレード

「変なことはしないって約束しましたよね?」

ガ、ガンブレードさん?

顔が怖いですよ?

ガンブレード

「時雨さん、少し待つてくださいね」

時雨

「は、はい！」

Help me!

+ - - + - - + - - + - - + - - + - - + - - +

視点、時雨

遅いな…

クロがガンブレードに連れ去られて十分程度たつたけど2人はいつこうに帰つてこない

何かあつたんだろうか？

時雨

「もう少し待つか…」

「あ、ルビーちゃん…」

時雨

「ん？」

なのは？

いや色が違うし氣弱そだなんかもじもじしてゐるし

ついでに色は青と黒だ

ルビー

「あれ？ サイファちゃん？
あれ？ なんでわたし縛られてるの？」

名前判明

簡単に教えていいのかな？

サイファ

「ル、ルビーちゃんの敵、とらせてもらいます！」

死んでない死んでない
まだ生きてるから

サイファ

「サファイアバスター！」

青いレーザーか…

時雨
バリエース・マーキシム
「障壁最大」

何重もの壁を作り攻撃を防御する

(「ガガア）

弱いな
壁を出しすぎたか

時雨

「今度はこっちの番だ」

軽くいなすか…

時雨 エオカーティオ・ウォルキュリアー・ルム

「風精召喚 ゴントウヘルナーリア・グラディアーリア

剣を執る戦友 ゴントラ・ブーゲネット

迎え撃て！

自分の複製を作り戦わせる

サイファ

「…ぐうう…」

その間に

時雨

ウェニアント・スコト・リチャーズ・フリグリエンテース

「来れ雷精風の精

クム・フルグランティオナガット・テンペスター・アウストリーナ

雷を纏いて吹きすさべ南洋の嵐

ヨウイ・テンペスター・フルグリエンス

雷の暴風！

雷と風で攻撃する

相手は俺の「パワーに気を取られているので普通に当たる

サイファ

「！、キヤアアア！」

時雨

「弱かつたな…」

とりあえず縛つとくか

・ * : . ' . * : . ' :

ガンブレード

「ふふふ」

ただいま鞭を持ったガンブレードにじりじりと迫られてるクロです
やばいね

ほぼ死亡フラグだ
俺死なないけど…

ガンブレード

「ふふふ覚悟してくださいね？」

いまさら何の覚悟がいるんですか？

ガンブレード

「ふふふ」

鞭の射程内に入った
オワタ

(ドガア)

なんぞ？

もしや救世主！？

「お前ら魔力たけえな

死んでもいいわぞ

違つた、さらなるフラグだつた
ついでにいい笑顔の知らない子だ
でも多分色違い？

ショートの髪を髪留めで止めてる女子[ただし色は黄色]と縁がベース

ガンブレード

「さつきのルビーといつ子の仲間でしょうか？」

「！？まさかルビーを！？
ルビーの敵！」

激しく勘違いされた！？

クロ

「ガンブレード、頼んだ」

ガンブレード

「いやです

マスターが行つてください」

なぜ！？

いつもはいつもとは聞いてくれるのに！

ガンブレード

（たまにはもだえてるマスターを外から見るのもいいかもしませんね）

サドだつた

ク
口

「なぜだ！？なぜなんだ！？」

「はあ！」

二
五

速攻でやられた

馱菓子！

(ノミシ)

水面を蹴って飛び上かり

1
?]

ク
口

「アッパー！」

昇
拳
！

「ああっ！」

(バシヤ)

決まつた！

ガンブレード

「つまらないですね」

そこ黙だり

じつは負けたやるほど余裕はねえんだよ！」

ガンブレード

「それに不意打ちはひどいですか？」

相手は女の子なんですよ？」

よそ見するのが悪い

そして敵に容赦はいらぬ

クロ

「よし早速、レッソギッヂギチ」

+ - - + - - + - - + - - + - - + - - + - - +

やつと戻つてこれた

時雨

「遅かつたな
ん？そいつは？」

クロ

「襲いかかってきたからギッヂギチにした」

お約束だよね？

ルビー

「あー・シャングだ！」

名前判明、シャングといつらじこ

クロ

「その子は？」

なんか新しいのが増えてるけど

時雨

「襲つてきたので以下省略」

あんまり略してない気がする

時雨

「とつあえず、戻つて話を聞くか

シャング

「絶対教えないからなー！」

サイフア

「や、そうですねー。」

ルビー

「だねー。」

クロ

「帰りに隣屋でシュークリームでも買つていいくか

ルビー、サイファ、シャング

「『よひ』んで喋らせてもらいますー。」「

素直でよひじー

+ - - + - - + - - + - - + - - + - - + - - +

途中シユーカリームを9個ほど買つて帰つた

クロ

「じゃあ話の重要性であげる個数を増やしてやれつ
まずルビーから」

期待はしないけどな

ルビー

「何をさせばいいの?」

そこからですか…

時雨

「お前等に関する情報だ」

ルビー

「じゃあね、あたしたちは元々は一つで合計7人なのー。」

なるほどなるほど

クロ

「まあやくにたつたな

時雨

「おそらくロストロギアだな」

クロ

「2個だな
後で渡す
次サイファ」

サイファ

「え、えっと

私達はこの世界の人の姿を借りていて
名前は私たち以外には、パール、エメラ、オキス、オウパです」

爆弾発言投下

ということは要するに知り合いかもしれないのか
シャング以外はこいつらがそうだし

クロ

「3個だな、次」

シャング

「あたしらの力関係はルビー < サイファ < あたしくパール < エメラ
< オキス < オウパの順番で強くて
あたしらより他の四人の方が断然強いんだ
あと、オキスとオウパの魔法は即死レベルだから避けなきゃ死ぬよ
?」

怖つ！？
最後の2人怖つ！？

なにそれ！？

クロ

「余つてるのが4個なので4個」

シャング

「やつたあ！」

仲間を売った事を自覚しろ

にしても花より団子ってほんとだな
すぐ引っかかった

クロ

「これが時雨、これがガンブレード、残り俺」

裏切った3人

「え！？あたし達は！？」

クロ

「別にお前等にやるとは言つてない

役に立つ情報ならそれに見合つた個数渡すと言つただけだ
ついでにルビーはガンブレード、シャングは時雨、サイファは俺だ」

裏切った3人

「「「嘘つきー。」」

クロ

「裏切り者に言われる筋合いはない

え？ 卑怯？

俺が買った物なんだからいいじゃん

時雨

「とりあえず明日あたりもう一度見に行くか」

ガンブレード

「ほうれふね」

ガンブレード、口に物を入れながら喋るな
よくわかんないから

クロ

「ぱりあえふひょ「はへふは」

時雨

「それはどじ語だ？」

食べながら語

苦情は受け付けません

まあその後は例の3人をシュークリームを使っても遊んだ
食べ物で遊んだんじゃなくて、食べ物を動かしたら遊べた

猫みたいに釘付けだつたからつい…

+ - - + - - + - - + - - + - - + - - +

翌日

クロ
「レッジバー！」

時雨
「ハイテンションだな」

おらつええ奴と戦いてえんだ！
理由はいくつか試しうちしたいから
だつて威力パネエからあんまり撃つてないやつとかあるんだもん！

ガンブレード
「マスター、まさかあれを？」

クロ
「そうだ！」

今こそ暴れるときたもー！」

ガンブレード

「わくわくしますね

お前もかブルータス

ルビー

「でも勝てないと思ひよー！」

シャング

「あたし達とは段ちだからねー！」

サイフア

「殺されちゃいますよ？」

クロ

「ほやこてゐ！」「

時雨

「闇熱血少年~~~~」

クロ

「殺つちまつんだぜ」「

+ - - + - - + - - + - - + - - + - - + - - + - - +

「お前ひ……誰だ？」「

白いクロノ登場！

ルビー

「パールだ！」

パール

「ルビーか…敵に名前を教えるな…」

ルビー

「もう、バレてるよ?」

パール

「なぜだ？」

ルビー

「だまされたの…
殺しちゃつて…」

パール

「言わねずとも…」

なんか死亡フラグ…

時雨

「メンディクサイよつて泣せる」

ちゅ、え？

クロ

「…」

時雨

「…んじやない？」

クロ

「OKOK

レッシとが血みどろ！

ガンブレード、アサシンモード…」

ガンブレード

「了解ですマスター」

てつてれー

クロ

「行くで！」やる…

「ヘンヘン」

ジャパニーズ忍者！

クロ

「はつ！」

（シュウシ）

ぞくに言うクナイを投げる
余談だが漢字で書くと苦無

パール

「その程度……」（スカ）

外したがモーマンタイ！

クロ

「必殺の！」

パール

「……（スツ）」

警戒してこっちを向いて構える

クロ

「あー後ろ！」

パール

「そんな手に騙されると（ドス）なー!?」

クロ

「だから後ろつていったのに〜」

パール

「この程度で動きが鈍るとでも?」

クロ

「普通なら即死だよ?」

パール

(ガク) 「…?」

クロ

「クナイは漢字で書くと苦るしみが無いと書く
即効性の猛毒毒を塗つて殺したり
当たり所によつては致命傷を与えて苦しむもなく相手は死ぬこと
からきてくる」

パール

「毒か…卑怯な…」

卑怯とは何ですか!卑怯とは!

元々人を殺すために使う物なんですよー

クロ

「魔法無効つきの神経毒にしてやつたんだからあるがたく思え
本当なら即死だ」

もちろんギッヂギチにするためだけね

+ - - + - - + - - + - - + - - + - - +

時雨が偵察に行つた

して…

シャング

「これほどにて」

クロ

「ダメ」

フォナ

「これキツ」

クロ

「我慢しなさい」

さつまかくすうとの調子

誰かヘルプ

「解いてやらんか！」

クロ

「だからダメだつ……て？」

誰？

(△□)

クロ

「ゴウパ！」

は、腹に穴が…

クロ

「ゴブ！お前はゴパ！一体ブハッ！誰だパア！」（ダバダバ）

「よく死ないな」

死ねないんです

フオナ

「あれ？エメラ、何でここにいるの？」

エメラ

「魔力をたどつたらここにきた
おまえ等は捕まつたのか？」

パール

「こいつは卑怯な手を使つから氣をつけろ」

失敬な

本当なら口も塞いでたんだぞ？
まさに出血大サービス！

クロ

「ガンブレード、ガードモードパア！」

ガンブレード

「死なない程度にがんばってくださいね」

大丈夫大丈夫！

腹は閉じたがら！

後は内臓だけなんで大丈「ゴパア」

エメラ

「面白い奴だな

我が家来にならぬか？」

クロ

「それならガンブレードの下僕のほうがまし」

エメラ

「そうか…

ならば死ね

イヤだよまじつちゃん！

(ガギイイ)

エメラ

「ほう、今のを止めるか

あっぶねえ！

今のは止めなきや肉片の確定だつたな

クロ

「攻撃は最大の防御

なら防御は最大の攻撃だ
リフレクトインパクト！」

(ズガーン!)

今受けた衝撃をそのまま跳ね返す

エメラ

まごたく増えてなしけ

ヒ
メ
ラ

「いれなうりどうだ？」

(ザザザザザザザザザザザザザザザ)

えー（。；）

なにこれ？

食かしーはしてすよ?

やバイヤバイヤバイヤバイヤバイヤバイヤバイヤバイ
やバイヤバイヤバイヤバイヤバイヤバイヤバイヤバイ
しゃれになんないよ？

「エメラ
「食うえ」

「嫌だ！」

(ビュビュビュビュビュビュビュビュビュ)

クロ

「アレテミス、アルテミス、アルテミス！」

アイテムは基本的に一種類につき一つしか出せないけど
アルテミスの盾ってゲームによって形状も能力も違うから幾つか出
すことができる

見た目は違うけど、どれもゲーム中最強の盾だから安心だ

(ガガガガガガガガガガガガガガガガ)

エメラ

「なかなかやるな」

クロ

「MA DA MA DA！」

おひなやひせみひただ

おらがまほいせうひつただ

次回を待て！

「もひるよこマジメに書け」

キャラ名考えるのに30分かかった

ク
口

「俺たちには」

5
秒

ガンブレード

「お仕置きですね」

A a a a a a a a a a ! !

また遅くなると思いますが、遅すぎると感じた場合は途中で投稿します

初「コラボー魔法少年と七人の使者」その2（前書き）

今回でコラボは終わりです
なんかやつちまつた感が…

とつあえずじで

初「ラボ！魔法少年と七人の使者 その2

(ガガガガガガガガガガガガガガガガ)

ただいま海の上で交戦中

相手テラ強ス

エメラ

「どうした？ その程度か？」

クロ

「防御特化にしすぎたため攻撃手段がないといつも」

何でこんなことにしたんだろう？

クロ

「時雨ヘルプ！」

時雨

「めんどうい、ダルイ、ガンバ」

クロ

「薄情者！（ドドドドド）ギョワアツス！」

剣が！ 剣がああああ！！

時雨

「ファイト！」

クロ

「手伝えや！」

時雨

「仕方ないな

ザグルゼム、ザグルゼム、ザグルゼム、ザグルゼム

いっぱい光？の玉が出てきた

(ビヨビヨビヨビヨビヨ)

こいつ來た

エメラ

「！（避けきれない！）シールド！」

すぐに反応してたてを出していながらまるでそこにないかのように貫通した

あと俺にも当たった

時雨

「ザケルガ、ザケルガ、ザケルガ、ザケルガ」

当たる当たる当たる！

クロ・エメラ

「ぐああああああああああああ！」

痺れる～！

時雨

「満足か？」

クロ

「俺にも当たつてたよね？」

時雨

「狙つたからな」

このやるう

でも敵は弱つてゐるみたいだから

クロ

「ガンブレード、マジックモード」

ガンブレード

「了解、マスター」

てつてれ〜

ブランマジみたいな格好になつた

クロ

「ブラックマジック
黒・魔・導」

巨大な黒い魔力の弾を打ち出す
ついでに威力はドルオーラい5つ分ぐらい

エメラ

「ぐ、ああああああー！」

K・O!

クロ

「お約束のギツチギチタイム」

+ - - + - - + - - + - - + - - + - - + - - + - - + - - + - - + - - + - - + -

完了

シャング

「2人も倒しちゃうなんてすごいわね」

サイフア

「で、でも後2人いるよ」

フオナ

「そうそうー!大丈夫大丈夫!」

クロ

「黒幕みたいな話してるのに申し訳ないけどいつたん帰るよ」

今日は疲れた…

なんだかんだで時間がかったから今夕方なんだよね
しかも殆ど食べてない

クロ

「いつたん帰るぞー!」

ガンブレード

「転移開始」

ガンブレードの転移は普通とは少し違う

座標を知らないてもイメージから座標を導き、そのまま転移する方法をとる

だから少し時間はかかるけど確実だ

ガンブレードいわく違うところをイメージしない限り失敗することはないらしい

(ショット)

+ - - + - - + - - + - - + - - + - - + - - +

到着！

あれ？

クロ

「リリビー？」

さつきとは違う海の上
だつて岸が見えないんだもん

ガンブレード

「おかしいですね
ちゃんとできてたはずですけど…」

「よつ！」

「歓迎するぜ？」

俺とガンブレード！？
ん？今激しく違和感が…

「俺はオキス！」

「私はオウパ

あなた方の魔力は非常に多い
よつてあなた方の魔力…貰い受けます」

やつぱり聞き間違いじゃないね
俺が敬語だあああああ！！

そしてガンブレードが俺っ子だああああああーー！

ガンブレード

「私の姿で下品な言葉を発しないでください
虫睡が走ります」

クロ

「同感」

俺が敬語とかハ下しか喜ばない

ついでにハ下は元の世界のクラスメイトでホモだ

ガンブレード

「この方は私がやつても？」

クロ

「どうぞ」

ガンブレードはオキスを「」所望らし

おお怖

ガンブレード

「……転移開始」

今なんと?

(シユ)

消えた!?

俺をおいて消えた!?

オキスも消えたけど…

オウパ

「では私達も始めますか」

ちょ、それ死亡フラグ

100%回避不可能なフラグじやん

オウパ

「やりますか」

脱兎の「」とく!

クロ

「逃げるー!」

オウパ

「逃がしませんよ!」

そして命がけの鬼ごっこが開始された

+ - - + - - + - - + - - + - - + - - +

視点、ガンブレード

なかなか強いですね

卷之二

३८

「あなたこそ」

(T₁ T₂ T₃ T₄ T₅ T₆)

しばらくかかりますね
マスターは大丈夫でしょう

私がいないので逃げるぐらいしかできないと思つんですけど…

とりあえず今はこの方を倒さなくては

才キス

「ははははは...」

ガンブレード

「...」

(ガガガガガガガガガ)

すぐにはいけそうにありませんね

ガンブレード
「サンダー…」

魔力を手元の鎌の先にためて

ガンブレード
「ブレイカー…」

雷の斬撃を打ち出す
斬撃といつても横の長さで3m
まず避けることはできないはずです

オキス

「な！？
はああ…
剛破掌！」

(ブワア…)

消されてしましましたね…

今のはぼ全力だったのですが…
不意を撃つしかなさそうですね

オキス

「メテオ・インパクト！」

右ストレート？

いや…

(ドゥウー)

巨大なレーザー砲ですか…

ガンブレード

「ギガブレート！」

目の前に鋼鉄の板を作り出し時間を稼ぐ

ガンブレード

「俊足！」

その間に移動してできるだけ相手に近づく
あのパワーはかなり危ないです
不意を撃ち倒すなら多少の負傷は免れないでしきうからね

オキス

「ん？塵になつたか？」

相手の背後に回りこむことには成功しましたね

ガンブレード

「一燃え盛る炎の神剣《グラディウス・ディウイヌス・フランマエ・
アルデン》！」

巨大な炎の剣を作り出し振る

オキス

「後ろーー?」

(ドガアー)

やれましたかね?

でもこういうことを考えてるときって基本的に…

オキス

「ぐ、うう…」

生きてるんですよ…

オキス

「今のはかなりきいたな…」

普通は消滅するほどの威力なんですがね

オキス

「じゃあ俺の番だな」

ガンブレード

「あなたのターンはありません
ボルテック…」

さつきの魔法より魔力を鎌の先端にためて

ガンブレード

「ブレイカー！」

瀕死の状態では防ぎよつはないとは思いますが…

一応…

ガンブレード

「ダークネスウイップ！」

名前はウイップですが黒い職種のようなものを無数に放射状に出してそれを一箇所に集中させて攻撃する魔法なんですね

(トトトトトトトトトトトトトトトトトトトト)

オキス

「ああああああああああ…！」

ガンブレード

「ふう、何とか倒せましたね
とりあえず少し休んでからマスターの下に行きますか
魔力を消費しそぎました……ら……ね…」

視点、クロ

逃げ続けて早数分
スタミナがやばい

オウパ

「なかなかがんばりますね

このやるうは魔法で飛んでやがる

俺は魔法はガンブレードがないと使えないから海の上を走ってる

「元気で来たときは時間もこたけど今せびりこるのか…

クロ

「もう無理だ~」

明日は筋肉痛確定だ

ガンブレードは遅いし何なんだ?

もしかして、ガンブレードは負けたのかな?

なぜだらけ…

ぜんせん心配じゃなー…

もう無理だな

海に落ちるか…

クロ

「はーーー(アボ)(ン)ン(ン)」

んん? 今の面何?

(ザブ)

なにこれ?
……

オウパが浮いてる

頭から血を流しながら

おやじの岩壁にぶつかったのかな?

クロ

「もしかして勝った?」

なら善は急げ

早速縛るとしますか

あ、ガンブレードがないから縄がない

クロ

「仕方ない、泳いで運ぶか…」

時雨

「なにやつてんだ?」

あれ? 何で時雨が?

岩壁の上に? :

クロ

「何で?」?

時雨

「置いてけぼりされたから泳いでこいつら運んだんだよ」

クロ

「じや、上に上げてくれ」

時雨

「仕方ないな…」

「ヴァーリヴィアンダナ!」

水が、手?になつて俺達を岩壁の上まで持ち上げてくれた

クロ

「ありがとう…」

時雨

「いいぞ」

王様と社長

こいつは同類みたいだ

時雨

「まさかおまえの方が早く帰つてくれるとはな」

クロ

「終わつたのがこの下だしだだ走つただけだからな」

時雨

「どうやって倒したんだ？」

クロ

「氣づいたら自滅してた」

走つて限界がきたから止まつたらすい音と共に頭から血を流してたからなにがあったのかわからない
つてかわからたくない

自分の姿をしてる奴が自滅した方法なんて知りたくない

「ほつ、オウパを倒したか

クロ・時雨

「…！誰だ…」

振り向くとどうみても魔王な黒い肌のおじさんがいた
ラスボスですねわかります

ガノン?

「我が名はガノンドロフ
これは使えんな」

ガノンさんでした
そしてあれは…

(キラーン)

白いネックレス
あれがジュエルシードかな?

ガノン

「消える」(フツ)

消えた!?

コピーズが消えた!

ん?あのガノンに抱えられてるのって…

ガンブレード

「…うう…」

ガンブレード!?

まさかやられたのか!?

クロ

「ありえない！」

時雨

「顔芸ですね、わかりますwww」

こんな時でもネタを忘れないそれが俺クオリティ！

ガノン

「こいつか？

ここに来る途中、宇宙空間で拾った
オキスと互角かそれ以上の実力はあるようだな
しかし私の前では虫同然だったな

人でも虫でもないんだけとね？

とりあえず..

クロ

「やるか？」

時雨

「そうだな」

家のデバイスを虫呼ばわりした罪
償つてもらひうぞ？

クロ

「瞬殺」（フツ）

ガノン

「む？」

敵の背後に回り込み

クロ

「背掌！」

背中に掌底を入れる
が、しかし

ガノン

「スピードはあるが…
それではきかん！」

(バキ)

頬に黒い炎を纏つた裏拳を入れられる

クロ

「ぐつはああああ…！」

10mは飛んだ

駄菓子菓子！

時雨

キーリップル・アストラベー

「千の雷！」

クロ

俺が時間を稼ぎその間に時雨が強力な魔法を決める
でもこれって…

「当たるんぢやね？」

ガンブレード

「えりですね」

ク
口

一いつ間に?

ガンブレード

「はい、お2人が時間を稼いでくれたのでなんとか回復できました」

ク
口

はい、おきまつりのパターン

ガノン

「へへ、しかしれしき」とで…。」

そのセリフって死亡フラグだよね？

ク
口

「ガンブレード、いけるか？」

ガンブレード

「はい、もちろんです」

ク
口

「よし、全力全壊！」

(キィィイ……)

ガンブレード

「ワールド」

(イイイイイー！)

クロ・ガンブレード

「ブレイカー！！」

(ヂヂヂヂヂヂヂヂウウウウ……)

無数の魔力爆弾がガノンめがけて飛んでいく

ガノン

「ぐ、ああああああああああああああああああーー！」

時雨

「田があ、田がああああ！」

たしかに凄い光だ

目を瞑つても真っ白だもん

そしてそれが治ると

クロ

「やつすぎた？」

時
雨

「やつわざだ」

わっせまで崖の上だつたんだけ今は海の上です

ガンブレード

「マスター、魔力がもつないので飛べません」

クロ

「マジで?

俺も限界

時雨、俺達運ぶの頼んだ

わっせのやしきつぬくしました、はい

時
雨

「俺も疲れているんだが…

まあお前達程じゃないからいいけどな

クロ

「そりが、じや頼……んだ……」（ガクン）

俺は意識を手放した

俺つて気絶多いよね？

視点、時
雨

まつたくこつらは…

+ - - + - + - - + - - + - - + - - +

俺の出番ほほのじやねえか
…やべえ、超悲しくなつてきた…

時雨 「どうあれず運ぶか…」

+ - - + - - + - - + - - + - - + - - + - - + - - +

視点、クロ

クロ
「ん…ん?」

森? ああ 気絶したんだっけか?

時雨 「おお 気がついたか

クロ

「ああ、 ガンブレードは?」

首元にない
姿も見えない

時雨

「すでに回復して薬局に行つた

クロ

「近づいて薬局あつたんだ?」

時雨

「一応海鳴の近くみたいだしな」

なんとこい「都合主義」www

ガンブレード

「買つて来ましたよ~

あ、マスター起きましたか」

クロ

「ああ今な
何かつて着たんだ?」

ガンブレード

「食料と傷薬です
マスターはボロボロですか?」

あ、本当だ

俺の体傷だらけ

多分あれの反動だな

あとは吹つ飛ばされたときに思いつきつりつりむいたか
でもそれではここまではならないよなあ…

やつぱり反動だな

クロ

「手当では任せ
とつあえず食料」

ガンブレード

「何がいいですか?」

クロ

「ステーキ」

は、ないか…

ガンブレード

「はい、どうぞ」

あつたよ…

どんな薬局だよ…
さっきまでのシリアル返せよ…
え？シリアルスじゃなかつた？
あれが限界

クロ

「いただきます」

ガンブレード

「時雨さんは？」

時雨

「飲み物でいい」

ガンブレード

「ではこれを」

時雨

「……なにこれ？」

ガンブレード

「幾つかの薬草と薬品を調合して作った栄養ドリンクです
味は保障しますよ?」

時雨

「色が深緑なんだが…

(「ク）おお、なかなか（デサ）」

時雨が倒れた

あんなの飲むから…

ガンブレード

「マスターもどうぞ」

その物体Xを俺にも飲めと申すか…

クロ

「さうば青春ー。(「ク) ああ、味はなかなか（デサ）」

動けません

声出ません

これが植物状態なんだね

ガンブレード

「そういえば調合した薬の中にフグの卵巣がありましたね

それ毒!

薬じゃなくて毒!

ガンブレード

「スタミナがつくようにと入れたのですが失敗でしたね」

人の体で実験すんなしてかいつ作ったの?

ガンブレード

「やつぱり歩きながら即興ではやらないほうがいいですね」

買つて帰つてくる途中に作つてたのかよ!?
てかフグの卵巣とかよく手に入つたな!?

時雨
「……はあっ!死ぬかと思つた…」

クロ

「よく生きてたな
つてが治るの早くね?」

時雨

「俺のスキルだ

全てを超越するという簡単な能力だ」

なにそれ怖い

時雨

「お前は?」

クロ

「毒が致死量だつたから不死のスキルが発動したらしい」

時雨

「チートだな」

俺も思つ

(ペペペペペ)

電話？

誰の？

ガンブレード

「マスター、お電話です」

そういうやつたなあ

『お元気ですか？』

クロ

「堅苦しいな
樂にしゃべれよ」

『やつですか？
なら遠慮なく
元気？』

クロ

「ああ元気だ

つこさつきあんたから のプレゼントから のプレゼントで死にかけた
けどな」

『ほんと?』

あの子に料理教えるの忘れてたわ
多分それね』

それ大事

つてかあんたが何でもできる人にしたのか

『まあ元気そうで何より

ところで今ジユエルシード持つてるよな?』

なんで知ってるし

まだ誰にも言つてないのに

ネタが一つ消えた

クロ

「ああ持つてる

でも何で?」

『あの子に言えば多分デバイスにできるわよ

能力そのままだね

うまく活用しなさいな

マズダ?

『それじゃまたかけると思つから忘れないでよ?』

クロ

『忘れないように電話でかけよ』

『はいはいじゃね』

切りやがつた…
まだ言いたい」とはあつたのこ…

時雨

「どうした?」

クロ

「これ、デバイスにできるらじこ
しかも能力そのまま」

時雨

「すうじな（フウ）！」

時雨が半透明になつてゐ

クロ

「いやああ！
俺幽靈とかダメなんだよー
こひけくな！」

時雨

「酷いな…

多分お別れつてやつなの…

マジで？

クロ

「そなの？

じゅまたこつか

時雨

「ああそのときせむらしみにしてるね」

バトルジアンキーですね
わかります

クロ

「遠慮したいが…
まあいいか
じゃ、またいすれ」

時雨

「ああじゅあな」（フウフア）

消えた

クロ

「夜に出でることいになど…」

ガンブレード

「それはないと思こます」

なうよしー。

そして家に帰り、今までのひとつ事件に巻き込まれてこく
新しい仲間とともに

初「ラボー魔法少年と七人の使者」その2（後書き）

あの七人はA・Sから出てくると思います
自分でキャラ増やして大丈夫なんだろうか…

クロ

「考へなしだからこうなる
皆さんにはこうはならないようこがんばってくださいね」

酷くない？

消すよ？

クロ

「できないくせに言つた」

まあ そうなんだけどね?
とりあえず！

A・S編をお楽しみに！

クロ

「その前に無印終わらせろ」

その前にまつたく更新しないほかの小説を更新してからね

影流

「出番か！？」

存在を忘れてた主人公登場

影流

「酷つー。」

次は君らだから喜べ
では皆さん
次の話を

クロ

「お楽しみに」

俺のセリフへ

第八話 イヤツフー！（赤髪風）（前書き）

作者

「残念番外編です」

クロ

「バカなの？死ねよ？」

作者

「ひでえよ

理由は簡単、これを見よ…」

(・・'ー'ー)ジー

() パシゴシ

(。 。 :

クロ

「PV10000、ユニーク2000…？」

作者

「ついたついただ！」

クロ

「お前の小説中で最高じゃね？」

作者

「そりなんだよ～

で、記念に何かしようかな?

みたいに考えてるんだけど、なにかいい案ない?」

クロ
「かんがえなしか!-?」

作者
「それが俺!」

クロ
「はあ…

では本編をじつぞく

作者
「え!-?

じや」「れなに!-?」

クロ
「前書き」

作者

「書くとこ間違えたー!-!」

クロ
「バカは無視して本編へ」

クロ・ガンブレード
「「どうぞ!」」

クロ
「「どうぞ!」」

第八話 イヤツワー！（赤髪風）

クロ

「調子はどうだ？」

プレシア

「なかなかよ」

それはよかつた

あの後しっかりと食事をとり

睡眠もしっかりととっているプレシアは、元気になっていた

プレシア

「それにしても、フェイトに友達ができるよかつたわ」

そういうえばアリシアの蘇生は成功して、ジュルシードがいらなくなつたので、フェイトに謝罪もかねてなのはに渡すように言ったところ

なんかなのはさんはいこいこみたいであつさつと受け入れられたらしい

クロ

「いや〜

よかつたよかつた

プレシア

「本当によかつた……わ……」（ダサ）

え？なに？どうしたの！？

クロ

「先生！この人は…この人は治るんですか！？」

ガンブレード

「誰が先生ですか誰が
おそらくなにかの病気じゃかないでしょ？」

アリシア

「おそれらぐこのまま放置すれば死ぬでしょうね」

ガンブレード、ナイスツツ「ミ

そしてリアルバーロー、自分の母なんだから心配してやれ

ガンブレード

「とりあえず検査してみますか」

+ - - + - - + - - + - - + - - + - - +

アリシア

「ふう…

しばらく動いていなかつたので検査だけでも疲れますね」

やけに落ち着いてるリアルバーロー

ガンブレード

「検査の結果は肺癌です
しかも末期の」

クロ

「よつやかのこ?」

アリシア

「現代医学での治療では効果は皆無ですね」

マジで!?

死ぬのか!?

クロ

「先生…どうにかして治してやってください…」

ガンブレード

「だから先生じゃありません
そうですね、後数日で治るでしょう」

クロ

「そんな…!
え?」

アリシア

「私とガンブレードさんの技術を合わせれば簡単です
むしろ後三カ所ぐらいに転移していくも可能です
まあ、母さんの場合全身に転移していますが…」

そこから後三カ所とか体に新しい部品を取り付けなくちゃいけない
じゃないか

クロ

「でもビックリして治すの？」

ガンブレード

「魔力を送り込んで癌に侵されている部分だけを腐敗させ、それを取り除き、さらに細胞を活性化させて少し余った癌細胞の残滅と細胞の再生を促進されば」

アリシア

「1日で治療は完了します
ただし、動くと細胞がうまく結合しなかつたりするので、しばらくの間は安静にしてもらいます」

なにそれ？

クロ

「よつするにこの人は助かるんだな？よかつたな！（トン）」「ゲボオー！先生！早く治療を！」

数日後、アリシアは管理局に投降し、何日か刑務所に入ることになった

そして、なのはとフレイトが楽しそうに話していたのでそれを微笑ましいと思つた次第

後、なんかムカつく黒色がいたので黒・魔・導 してやつた

そしてなのは家には新しく俺の小屋ができた
猫用だけどなかは広い

普通になのはが友達とか連れてくるからビックリだ

その時に外にでて暇を持て余していると空から人が…

その時に手に入れた白い宝石はガンブレードによってデバイスに改
造されて、なぜかアリシアが持つことになった

理由はプレシアからデバイスを作つてやつて欲しいといふ電話が來
たからだ

あんなチートなデバイスほかにねえよ
ガンブレードを除いて

そして今、図書館に来ている
理由は簡単

クロ

「暇なので学校に行こう」

ガンブレード

「こきなりですね」

まあいいじゃん

勉強は嫌いだけど、暇を持て余しそぎるのもキツいんだ

クロ

「はい勉強勉強
ん？」

車いすに座っている色違イシャング発見
いや、こっちがオリジナルだよな？

クロ

「無視無視」

「かわいい女の子が困つてゐるで～」

自分で言つなし

俺は転入試験の為の勉強をしにきたんだ！

クロ

「え～、ビリにあるのか…」

「手伝えやー！」

クロ

「頑張れやー！」

「足悪いんやー！」

クロ

「それはかわいそつこ
だが断るー！」

「裏に情報回したる…」

怖い怖い

この頃の小学生は怖いね

近頃なのはもフェイントと遊び始めてからなんかいい笑顔になることが増えて、比例して俺のライフが0になることも増えた

仕方ない、てつだつてやる

クロ

「どれをとればいいんだ?」

「あれ」

クロ

「まー、ちょっとひ

「ひつまー

なこや?

「兄ちやんみんかおやな
どやへ、家で飯でも食べへんか?」

クロ

「よひこんで

だつて高野家だとキャシトフードだから
うちははやて、ハ神 はやて

「わいか

めつね聞か覚えある
でもなんだっけ?
まあいいや

はやて

「うひ、料理には自信あんねん」

クロ

「マジか、楽しみだ

いつもキャットフードだから」

はやて

「どんな生活してんねん…」

ネコ

+ - - + - - + - - + - - + - - + - - + - - +

はいつきました

またでかい…

この頃は金持ちが多いのか？

はやて

「まあ入り」

クロ

「お邪魔」

(ジャキ)

え？なにこれ？

なんで武器を突きつけられてんの？俺

「主、このものは?」

「怪しい奴は殴るに限るって」

はやて

「やめ、お密さんや

シグナムもヴィータもそれおろし」

なるほど、この危ない人&ロリータはシグナムとヴィータね

なんか舌を噛みそつな名前だな

「あら、はやてちゃん

お帰りなさい

その人は?」

「.....」

はやて

「名前は...なに?」

クロ
「クロ」

はやて

「本名は?」

クロ

「忘れました」

はやて

「マジメに答えてな?」（ジャキ）

またですか

しかも狼まで臨戦態勢

クロ

「マジで忘れた

それになんか思い出したくない

はやて

「そうか

あ、紹介まだやったな

シグナムとヴィータとシャマルとザフィーラや

シグナム

「よろしくたのむ

シャマル

「よろしくです

ヴィータ

「きらくわねえ面だな

ザフィーラ

「……」

今ロリータになんか言われなかつた?

クロ

「えつとシグナル、おまる、ロコータ」「ザフイー」わね

シグナム

「私はシグナムだ」

シャマル

「おまるってなんですか？」

なんでザフイーラだけ覚えてるんですけどか？」

ヴィータ

「氣にしてる」とを……。」

ザフイーラ

「…………」

ヤバス

ヘルプはやて

はやて

「まあまあやめたり」

クロ

「こままで氣にくわないと想つたし性格悪いと思ってたけど、さうがどう

はやて
「やつてあれ

あつね～?
なんですか?・

ヴィータ

「リンクーコア回収してもいいよな?」

はやて

「許す」

なにそれ怖い

(ガシ)

四肢を抑えられた

オワタ

(ズボ)

ギヤアアアアアアア!!

手が、手が入つてくるよおおおおおお!!

(ズブ)

ぐはあ!

氣絶

地味に効く…

第八話 イヤツフー！（赤髪風）（後書き）

氣絶（笑）

クロ
「つむへえ」

なんとなーく
キャラ紹介の付け足し

クロは魔力はなのは級にある
が、頭が残念なため、扱い切れていない
やはりガンブレードのサポートが不可欠

クロ
「マジか…」

ガンブレード付け足し

実はえげつなく強い
SLBなら片手で防げる

クロ

「マジですか？」

アリシアの紹介

クールな学者

幽霊の時にフレシアの部屋にある資料などを読んでいた（投資能力

あり)ため知識は豊富
見た目は小学生
頭脳は賢者

クロ
「マズカ…」

こんな感じ
ではまた

クロ
「え~と、俺の運勢は…(ペラペラ)
あ、災難の相が…」

第九話 秋の日 (前書き)

遅れてしまい申し訳ありません！

クロ

「まったく、誰かに作者を変わってほしこよ」

やめて！

この小説が無くなつたら俺は…
俺はあああーー！

クロ

「わかつた、わかつたからマジ泣きすんな

嘘泣きだ

だまされてやんのwww

クロ

「ガンブレード、行くか」

ガンブレード

「了解しました」

え？ なんでマジシャンモード？

つてその技は！

クロ

「黒・魔・導…！」

ガンブレード

「改」

まだ本編では使ってな（ズドオオオオーー）ギャアアアアツス！！

クロ

「では本編を」

ガンブレード

「どうぞ」

第九話 秋の日に

あ～きが來～た
あ～きが來～た
と、言うわけで

クロ

「食欲の秋！」

ガンブレード

「秋はもう終わりますよ？」

クロ

「わかつてゐるよ」

はやて達にあつて数日
はやて達の手伝いをしたり、はやてのについて行つたり
高町家から逃げ出したり。
色々充実してますです。はい

クロ

「食欲の秋ももう終わり
だがしかし！」

俺は秋をまったく堪能していない！」

プレシア

「だからなんなの？」

いきなり出てくんなし

クロ

「もう出所したんだ?」

プレシア

「ちょっとした仮出所よ
今回で問題を起こさなければ晴れて出所よ
やつと2人に顔向けてできるわ」

そういうやあの2人は管理局がどうたらとか
世の中の今の常識を身につけるだので、面会なんかしてないもんな

クロ

「嫌われてるとか思つてないのか?」

プレシア

「そんなわけないわ
フェイトはきつく当たつていた私でさえ母親だと思つてくれてたし、
アリシアは昔から私にべつたりだつたから」

すごい発想

アリシアに関しては何もいえない

クロ

「アリシアはプレシアが死に掛けたのに超冷静だつたなんて言えな
い」

プレシア

「全部で出てるわよ?
まあ気にしないけど」

なんかすゞこ一家だな…

クロ

「で、期間は？」

フレシア

「一週間よ

その後三日で出所予定

問題は起りやねないでよ？」

クロ

「勝手によつてくるんだよ」

マジで何なのか…

あの肌黒魔王の時だつてなぜかなののははかわつてこなかつたし、
こつちに来てすぐにジョエヌ…いや、ジョセフ…まあなんか青い宝
石の事件に巻き込まれたしね

フレシア

「だいたいあなたのがいいなのね」

クロ

「そんなことは……ない？」

フレシア

「血ぬなしじゃない

じゃ、あなたといふと面倒な事になりかねないから行くわね

クロ

「あいあい」

プレシアは去つていった

クロ

「で、どうしよう？」

「さあみんな参加しろおーー！」

クロ

「ん？」

「大食いバトル開催だよー！」

参加費用は千円！

優勝賞金は参加人数によってじょうげんするよーー！」

参加決定！

+

-

-

+

-

-

+

-

-

+

-

-

+

-

-

+

-

-

+

-

-

+

「よい、スタート！」

(シャクシャクシャクシャクシャクシャクシャクシャク)

まさかスイカとは…

今は秋なのに…

だがしかし！

クロ

「残飯改修機の異名をとる俺をなめるなあ……」

ガンブレード

「マスター、それは引かれます」

だってみんなにこれ食えーって毎口食べ残しを食べさせられたからな
さらに女子から弁当をやたらともりつて断るに断れずにけっきょく
食べた

その後よく先輩にボディーブローされたつけなあ…

「終了ー！」

あ、終わった
まだ食い足りない…

「優勝はクロ！」

なんと一位の一倍の量を食べきつたあーー！

マジで？

もしかしてこれって特技じゃね？

「じやあ優勝賞金は…

なんと五十万円ー！」

多ー？

多すぎるー。

「おめでとうー！」

クロ

「あやつす

では路地裏へ

クロ

「ガンブレード」

ガンブレード

「何ですか？」

人型へ

クロ

「これどうする?
なにかほしいものはないか?
使い道に困るから」

ガンブレード

「ならアイスを食べに行きましょう!」

季節外れですよ?

+ - - + - - + - - + - - + - - + - - +

ガンブレード

「十五段二つ」

頼みすぎ

「は、はこどりわ

グラッグラ

今にも倒れそう

「ああー！」

店員が躊躇いやがつた

(ベチャ)

ガンブレードは「立腹

アイスを台無しにされたからだ

その後は服を買いに行つた

だがなかなかいいものがなかつたため、結局バリアジャケットで代
用した

なのになぜかまだ人型のガンブレード

本当に何でもできるんですね

ガンブレード

「次はバイキングでも行きますか」

クロ

「あそこはどうだ?」

(トラ盛りフルコース!

全部食べれば無料です!)

ガンブレード

「行きまじょウカ(ニヤコ)」

クロ

「ああ（ニヤリ）」

まだ腹3分目だ

（三十分後）

クロ

「ああ、もう無理だ」

ガンブレード

「そうですね」

クロ

「食料の在庫が」

どうやら「フルコースは食料全部のようだ
だがしかし、これたちの前では幼稚園児の前にあるお菓子も同然

「うう、参りました…」

計画通り…（ニヤリ）

さて

クロ

「次はどうに行こうか」

ガンブレード

「やつですね

「生活用品でもかつて居候でもさせてもひこますか」

それははやて家だよな?

それつてヤバス

死亡フラグがビンビンだ

でもやっぱり

クロ

「家がないときつこので採用」

シャンプーとリンスとボディーソープと後は…

クロ

「ガンブレーデに任せん」

三十万はあまつてゐから十五万は渡そつかな?

そんなこんなではやて家へ

+ - - + - - + - - + - - + - - + - - +

はやて

「なにこれ?」

クロ

「大量に金が余ったので、これをネタに居候させてもりおつかと」

はやて

「OK

生活用品まじめくじよく使ひしき

それに手伝ってくれると嬉しいわ

意外とあっさり受け入れられた

本のページを埋めると願いが叶うらしい
それではやての足を治すんだそうだ

別にイヤでもないし、むしろ暇つぶしが出来るので好都合

明日からロコータにやりかたを「教授してもらう予定

俺だってガンブレードがいれば強いんだからな！

頭がパーなだけで魔力が多いんだぞ！

ん？ガンブレードに頼めばもしかして…

(ニヤリ)

ヴィータ

「キモイ顔すんな」

だからって顔面に鉄球撃ち込むな

第九話 秋の日 (後書き)

と、いうわけで
はやて側へ

クロ
「なんかとてもなくヤヴァアイ氣がする……」

では今日は投稿が遅れているので他の小説も書かなくてはいけないので終わります！

クロ
「行きやがった…

あ、今キャラクター人気投票をしています
よければ投票してやってください」

ガンブレード

「ついでに暫定一位は私です」

クロ

「では皆さんの投票を」

クロ・ガンブレード

「お待ちしてますー。」

番外編？お知らせ？（前書き）

今回は皆さんから見れるかどうかの瀬戸際へ

番外編？お知らせ？

作者
「てなわけで注意事項です」

クロ
「どうしたんだ？」

作者
「YouTubeでなのはの動画が消えたから原作がわからない」

クロ
「一大事じゃねえか！」

作者
「よつてこれからは大体しか原作わからないから用語は友達から、ストーリーは完全に捻じ曲げてお送りします」

クロ
「やめろ
崩壊する」

作者

「仕方がないよ
原作がわからないんだから」

クロ
「どいかで探せ」

作者

「無理だ

過去にいければパソコンで書くだけ、そんなことは俺には不可能だ

クロ

「はあ……」

作者

「よつて他の小説を読み漁り、そこから原作を組み立てるのできなり投稿が遅れると想います」

クロ

「マジでか……」

ガンブレード

「マスター、保存は完璧です」

クロ

「そうか

じゃ、俺は音楽を全部聴いてくるわ

作者

「逝つてらつしゃい

俺はこれからどうじょい?」

原作知識は完全に皆無なので、原作は間違いなく崩壊します

覚悟していくくださいね

「

(ズドオオオ……)

作者

「なのはさんから贈り物
S LBが五発だつて

ぎやああああああーー！」

食ひつた

番外編？お知らせ？（後書き）

てなわけでこれからは原作は完全に崩壊しますよ～

こひなやつぱり

「後悔する前に回れ右」

第十話 崩壊（前書き）

遅れています！

でもこれからも遅れると思います

他の小説も書かなきやいけないので…

今回から原作が崩壊していきます

ストライカーズは今のうちに原作を確保しておきますので安心して

ください

第十話 崩壊

クロ

「はやて家に住み始めて約数日、俺はこれでいいのか?」

はやて

「完璧や」

「雑用している俺にそんな言葉をかけるはやて
しかし

クロ

「料理も、掃除も、庭の整備も、デバイスの管理も俺の仕事じゃマ
イカ」

ガンブレード

「デバイスの管理は殆ど私の仕事なんですけどね」

クロ

「俺にはデバイスの知識がないから仕方がない」

なのに毎晩一人ずつデバイス渡されて大変なんだよ
ガンブレードは俺にやり方を教えて寝てるときもあるし、結局は俺
の仕事にもなってるんだよ

そして今は床掃除中

一日の起きてる時間の七割は雑用の時間

はやて

「じゃあ私図書館行ってくるな

クロ
「ひゃい…」

かしてどうなる」とやら..

+ - - + - - + - - + - - + - - + - - + - - +

終わった..

ガンブレード
「やっと終わりましたね」

クロ
「そうだな」

三時間はかかったと思つ

だがしかし!

そのぶん成果は上々

クロ
「さてさて次はトイレ掃除……^{キレイ}」

何も聞いていない
何も見ていない

結界が張られるところなんて知らない

クロ

「 まあ ！」

トイレ掃除の始まりだ！」

ガンブレード

「 なんですか
魔力反応あります

この感じはヴィータさんですね」

クロ

「 なんのことかな？

わあわ、どうあえずトイレ掃除しましょ

ガンブレード

「 とぼけないでくだせ」

行きますよ」

嫌でじりざる~

行きたくないでじりざる~

首の襟を引っ張らないでほしいでじりざる~

+ - - + - - + - - + - - + - - + - - +

で、エターナルローラー発見

途中は省く

クロ

「 何やつてんだ？」

ヴィータ

「…！」

「めえ…」

喋れば殺す」

クロ

「イ、イエッサー」

キョワイ…

ヴィータ

「せっかくだから『めえも』い
少しなら役に立つかもしない」

やつぱり雑用

母よ、私は元氣です

ん~お母さんなんていったつけ?

ダメだ…

なのはちゃんとあつてからの記憶しかない…

え? なんでさん付けか?

ご想像におまかせしま…

+ - - + - - + - - + - - + - - + - - +

で、ついでこられたんだけど…

なのは

「何でそつちにいるのか教えてね？」

なのはさんに O H A N A S I されます

ヴィータ

「てめえ、 敵かよ」

されにエターナルロリータにも

なのは

「とりあえず」

ヴィータ

「一時休戦だな」

よかつた、助かつた…

なのは・ヴィータ

「「まずはクロさん（こいつ）からなの（だ）」「」

死亡確定

（ゴスガスゴスガス）

（ズドオオオ！…）

なのは

「じゃあ再開なの」

ヴィータ

「潰してやる」

ガンブレード

「あれ？ マスターが消えましたね」

ガンブレード

「こいどすよ」

ガンブレード

「変わりにつぶれた巨大なトマトがありますね」

それ俺

ガンブレード

「焼却処分にしますか」

やめてええええ！！

クロ

「お、俺だつて……」

ガンブレード

「なんだ

マスターだつたんですか
気づきませんでした」

不死のスキルで何とか喋れたけど
まさかの気づかなかつた宣言

ガンブレード

「放り投げる寸前まで気づかないふりのほうがよかつたですね（ボソ）」

聞こえるよ！？

気づいてたの！？

酷いね君！？

ガンブレード

「とりあえず直しますね」

笑顔が怖いです

大体考えていることがわかる

多分「もう一回いたぶるためにも直しましょ！」とか考えてるんだ
どうせそつなんだ

ガンブレード

「はい、治りましたよ

全身骨折していて、内蔵もぐちゃぐちゃで何がなんだかわからなく
なってました」

クロ

「よく治せたな！？」

ガンブレード

「簡単ですよ

一日死ねば戻るでしょう？」

殺したのかー！！

クロ

「殺すなよ！」

ガンブレード

「不死は死ななきや発動しませんからね
なので脳を「それ以上は言わないで！！」なぜですか？」

クロに耐えられないからです

クロ

「そりゃ 一旦死ねば不死の力で体は全部治るよ?
でも死ぬのはいやなんだよ！」

ガンブレード

「なぜですか？」

クロ

「そりゃ死にたくないよ
一回シグナムさんに斬られて死んだら一週間氣絶しつぱなしだった
んだからー。」

ガンブレード

「そりゃ死にたい」ともありましたね

多分死ぬときの酷さだと思つ
まさに木つ端微塵に切られたから

今回はガンブレードが起こしてくれたんだと思つ

クロ

「で、あつねじ（アスガスゴス）メパア…」

顔がへこみました

クロ

「鉄球が飛んできただよ
ヴィーター！気をつけ（ズオオオオ）…………！」

なのはわんのティバインバスターが飛んできました

クロ

「なぜ」「つなるへ..」

ガンブレード

「マスターには不運のスキルがついてるんじゃないですか？」

まぢか…

至急装備の見直しをしなければ…

(ペペペペペペペペ)

携帯DA！

クロ

「はい、もしもし」

(おう！私だ！
神だ！)

毎回喋り方が違うのは勘弁してほしい

神

(今日はお前にいいものを渡そうと思つてなー)

クロ

「なに? もうえるものならもうひとつよ。」

一部を除いて

神

(え~とこれこれ

はい!)

クロ

「え~なになに?」

(デバイス強化用チップ十枚セット)

クロ

「これ何?」

神

(デバイスを強化できるチップ

一つのデバイスに一つだけ使えるぞ!)

そんなアーケードのカードゲームみたいな説明されても…

神

(使い方は簡単

デバイスに吸収させる)

そんな機能あるのーー？

神

(近づければ多分吸収するよ)

適当ーー？

クロ

「じゃあ一回ガンブレードに」

ガンブレード

「はい」

(キーン)

なんか吸収された

ガンブレード

「……なるほど

」
「うこううわけですね」

クロ

「どうこうわけですか」

ガンブレード

「これはデバイス自体に魔力を持つ機能を追加して、使用者が魔法を使用する際にその魔力を使って強化することができる物のようですね」

なんてチート

ガンブレード

「ついでに魔力は術者から少しづつ吸収してためます」

マジカ…

ん?

クロ

「ガンブレードには意味がないんじゃ…」

ガンブレード

「私の場合、容量が強化されました」

ぬわんてチート

神

(じやあ、他のやつにも使ってやれ)

切りやがった…

クロ

「でも危なつかしいので、こぞとこぞときこ使おう」

ガンブレード

「そうですね

一度の使用で最大容量が術者と同じくらいになりますからね

それってドンだけチート…

クロ

「じゃあ！」

ガンブレード

「私達も参加しますか！」

で、あの2人の中に突入した

第十話 崩壊（後編）

やつてしまつた…
これがいじつしょつへ。

第十一話 悲しい主人公（前書き）

遅くなつてすいません！

やつぱり原作がわからないつて苦しいですね
ネガさん、情報提供ありがとうございました

では
どうぞ！

第十一話 悲しい主人公

前回のあらすじ

2人の間に飛び込んだ

2人の間に飛び込んだ

大事なことなので一回言いました

そして…

クロ

「ゴペヒ、これどう思パア」

ガンブレード

「何を言つてるのかがまったくわかりません」

仕方ないよ
いる場所がいる場所だもん

今いる場所？

ピンクの弾と鉄球が飛び交う2人の魔法使いの間

クロ

「準備はいいか？パア！」

ガンブレード

「いいですよ」

クロ

「では先生お願いします」

ガンブレード

「先生ではあります
はあ…プロテクション」

聞いた感じは普通だよね?
ところがどっこい

クロ

「360。全方向からの攻撃を防ぐことができるんだ!」

しかも隕石ぐらいならかすり傷一つつかない強度と来た

ガンブレード

「誰に説明してるですか?」

クロ

「自分、確認のために」

ガンブレード

「はあ…

で、どうあるんですか?」

どうするも何も

クロ

「力だ…!力を手に入れたぞ!
みたいな感じになつてノリだけで乗り込んだのに考えてると思つへ…」

ガンブレード

「マスターはバカなんですね」

クロ

「バカって言つた方がバカなんだぞー。」

ガンブレード

「マスターも言つてゐるぢゃないですか」

クロ

「あ……」

ダメだ…

やつぱり勝てない…

じゃなくて

クロ

「『ひのにか』でわかるへ、

ガンブレード

「やうですね

このプロテクションは移動はできませんし、中からもブロックしますからこれをとかないといけませんね」

なるほどなるほど

クロ

「じゃあ出た瞬間に一気に移動してビリビリかを絶せやがつ

なのはせんは後が怖い

でも口こ…もといヴィータは後が怖いビリビリがじゃない

クロ

「消去法でなのはさんで」

ガンブレード

「わかりました準備をしますね
できました」

早い

早すぎる

所有時間一秒もない

ガンブレード

「では解をまかよ

解けたら、早く動いて、なのはさんの後ろに回って攻撃
よし、イメージはできた

ガンブレード

「はいーーー」

素早く移動すれば弾の間をすり抜けることができるはずだ

クロ

「うおおおーボボボボボボボボボボボボ！」

ダメでした

出た瞬間は周りを取り囲むように弾幕が…

なのは

「クロちゃん…」

ヴィータ

「猫ー」

そういえば呼び方猫だったなあ
じゃなくて

クロ

「狙つた…だる…」

なのは・ヴィータ

「「うん（ああ）」」

はもつた…

クロ

「ガンブ…レー…ド…」

ガンブレード

「何かありましたか?？」

顔が笑つてる

ものすゞく笑つてる

100%わざとだ…

ガンブレード

「とりあえず回復しまして…

では改めて、止めますか」

クロ

「ついさっきまでボッロボロだった主人をよく無視できるね」

ガンブレード

「こつものことですし」

そりゃないよ…

なのは

「はあああああ…！」

ヴィータ

「おおおおおおお…！」

むこうはかなり白熱してゐるし…

(ズドオオオ)

クロ

「グボア…」

被弾

クロ

「止めれそうにないんだけど…」

痛いし…

ガンブレード

「いいから行きますよ

いつのまにか人型になつてた
てかひつぱらないで！

ガンブレード

投げないでえ～～！！

口ケ

口リツコの方に投げられた

ん? ロリッコのお氣に入り? の帽子が無いような…

ヴィータ

ガツツリ殴られて、しつかり吹っ飛ばされた

なのは

え！？ キヤノノノノ！

そして思いつきました

その2人ハイタツチしてんじゃねえよ

今の「ンボはエリ」の配管工の兄弟だコラ

(ドゴオオオ!)

ビルにぶつかってから突入した

なのは

「ぐ…う…」

ヤツバイ

なのはさんを下敷きにしていたようだ
今すぐどかなければ（ボキ）…嫌な音過ぎる…
岩に挟まれた腕を動かしたら今の音がなっちゃいました
要するに骨折ね

ヴィータ

「さて、覚悟しろよ?」

危なさMAX

誰かヘルプミー——!!

ヴィータ

「おらあー!」

オワタ￥（^○^）／

(ガキン)

お?天の助け?

フェイト

「なのは、大丈夫?」

ユーノ

「遅くなつてゴメン」

救世主キター——————！

クロ

「ギリギリセーフだつて
マジで死ぬかと思ったよ」

フェイト

「……そ、そう…
ごめんなさいね？」

反応がおかしいって

なんか知らない人に話しかけられたみたいな……ん?

クロ

「まさか……な
俺の名前は?」

フェイト

「え」と…
猫柳?」

クロ

「どつかで聞いたことあるけどぜんぜん違つたバーロー

ユーノ、お前ならわかるよなー!?

お前ならわかつてくれる信じてねゼー。

ユーノ

「…………もちろんー!」

クロ

「今之間はなんだーーーー!」

ヴィータ

「コンストレインじゃねえよ!」

ヤツベ、忘れてた
そのお礼もかねて

クロ

「加勢する!」

ヴィータ

「へ?あにつりの仲間じゃねえのか?」

クロ

「名前を忘れられたようだから思い出してもらひつまでもー!」

力で示し、記憶を呼び覚ます!
ちゅつと調子に乗りすぎました。すいません

ガンブレード

「マスター、大丈夫ですか?」

フェイト・ゴーノ

「あ、ガンブレードさん」

なんでそつちはわかるんだ――――

君ら人型見たことありましたっけ！？

俺の影どんだけ薄いんだよ！

ガンブレード

「マスター、どうします？」

クロ

「とつあえず、名前を思い出してもらひやるまでボッコで」

ガンブレード

「了解しました」

よつしゃあ！

レツツフルボッコー

（（（（（ジャキン）））））

え？

フェイト

「とつあえず邪魔だから」

ヴィータ

「足手まといになる前に消す」

ゴーノ

「せつしきなのはに覆いかぶさつたけどあれはなんなんだ?」

ガンブレード

「とりあえずマスターで試してみたがいいださー」

なのは

「クロさん…

頭、冷やそうか?」

俺、絶対絶命

クロ

「待て、話せばわか^{スドオオオオ}「ゴボオオオオオオ!」

(キューピーン)

俺は星になつた

なぜこいつになつた…

第十一話 悲しい主人公（後書き）

え、他の小説が放置になつてゐるため
それらを死ぬ気で更新しようと思ひます
なので、また遅くなると思ひます
へたすれば一ヶ月とかかかるかも知れない
でも一日で終わるかも知れない

なのでまた待たせることになりますがまつていでください！

追記

更新速度が尋常じやないくらいに遅くなつてゐる
このままだと一ヶ月に一話とかにもなりかねないですね
もう少し原作を把握してから書くべきだつた……orz

第十一話 錦匠ができた（前書き）

さて、書いてる期間が長くて自分で何かいてたか忘れてしまいました
なのでこの後は今までの話を振り返つてみよつと思ひます
ではどうぞ

第十一話 師匠ができた

ん……」「は?

つていつも放置かはやって家かなのは達つれてかれたかのどれかだ
けど
しつてる天井だしはやって家だな

はやって

「田、覚めた?」

クロ

「ああ、体中が痛い……」

はやって

「大丈夫か?

まあ今日は早めに休み

疲れてるやろ?」

.....
は?

クロ

「はやって、お前本当にはやってか?
もしくはどこかに頭でも打ったか?」

はやって

「殴るで?

さつきシャマルが検査したら疲労がたまってるつていつてたから早
めに休みつて言つてるだけや

大事な雑 y 家族が減つたら悲しこやろ?」

さいですか……

にして対応が変だ

ここまで優しくされたのは初めてだ

これは明日何があると考えて間違いは無いだろうな

シャマル

「はやてちゃんお風呂の用意できたわよ
ヴィータもいつしょに入っちゃって」

はやて

「わかった

クロ、シグナムが話しあるらしいから聞いたげてな?」

ついに呼び捨て

完全に召使状態だ……

にしても話し?

O H A N A S I ジャなきやいいんだが……

クロ

「シグナムさん、話しつて?」

シグナム

「いやな

お前がやられた後私も駆けつけて交戦したのだが……
深いキズを負わされた

これだ

シグナムは服をめぐりキズを見せた

スタイル抜g.. ゲフングエフン!

酷いキズだ……

クロ

「うわあ……」

酷いキズ……」

シグナム

「私の甲冑を貰いたのだが
いい師に教わったのだろう

クロ

「うんうん」

多分キズからしてフェイトかな?

切り傷っぽいし

クロ

「でも何でそれを俺に?」

シグナム

「一応な

お前がどれほど強いのかは未だ見せてもらっていない
とにかく気をつけるということだ」

あれ?

でも俺とあいつらが知り合いだって知ってるんじゃないの?.

クロ

「それぐらいなら俺もあいつらと知り合いだから知ってるよ
たぶん俺じゃ勝てないことも」

ガンブレード抜きだと

シグナム

「そうか

だがお前の魔力は高い
腕を磨けば強くなれるはずだ」

それがね?

なんかね?

ダメなんだよ……

色々試したけど結局ガンブレードの力借りなきやいけないんだよね

シグナム

「そして向こう側は」ちらを探つてくるだらつ
そうすると主に危険が及ぶ
そこでは」「

え? なになに?
まさか……

シグナム

「私が剣を、魔法を教えてやる!」

なんてこつたい!

そりや未来が決定したようなもんだ! (確定した未来、瀕死)

「俺がシグナムさんの修行に耐えられるとでも？」

シグナム

「主を守り、主の足を一刻も早く治すためだ
耐える」

「この人こんなに無茶言つ人だつたんだ」

クロ

「拒否権は？」

シグナム

「ない」

「ひつて俺の（地獄の）訓練は幕を開けるのだった

+-+-+ - + - - + - - + - - + - - +

次の日の夜

シグナム

「準備はいいか？」

クロ

「はい」

死ぬ準備はできました

ガンブレード

「手をかしましょつか？」

クロ

「いや、それだと苦しみが長引くから」

主に回復&アモル・プロテクションの弱化で

ガンブレード

「わかりました
ではがんばってくださいね」

クロ

「わかつて
死なない程度にはがんばるよ」

「いくらなんでもわざと負けるのはダメでしょ
つてなわけで

クロ

「本気でいきますよ!
ガンブレードー!」

ガンブレード

「ア解」

なんか久しぶりだな~

このBとガンブレードの感触
燃えてきたー!!

シグナム

「どうりでしる容赦はせん!」

いぐわー

ク
口

13

「シクナム・クロ」

+ - - + - - - + - - + - - + - - + - - +

シグナム

ふむ、大体お前のことはわかつた

ク
口

- 1 -

シクナム

「さて、本番といふか」

ク
口

「……………」、これなんて無理ゲー…………」（バタ）

シグナム

「なきない

あの程度で音を上げるよつなら
しつかりと鍛えねばな」

俺気絶しそうじゃね?

+ - - + - - + - - - + - - - + - - + -

クロ

「はつーー！」はハ神家！？私はクローー？」

はやて

「すいぶんはつきりしてるな

今しがた田が覚めました

俺の命が後どれぐらい持つか……

シグナム

「む？ 起きたのか？

なら行くぞ」

びつやう今日までのようだ

+ - - + - - + - - + - - + - - + - - +

シグナム

「今日はここまで

お前はスタミナが足りないな
町内を走つて来い

クロ

「…………

い、生き延びれた……

走つてこいつてこの体で走つたら100%激痛＆キズの悪化するよ
でもいかなきゃ殺されるからこいつてこよつ

ガンブレード

「とりあえず回復魔法をかけますね」

ああ、ガンブレードの存在の大切さがわかる瞬間だ……

クロ

「よし、行くか」

+ - - + - - + - - + - - + - - + - - +

と、言うわけで走りこんでたんだけど

クロ

「久しぶり」

フレシア

「そうね

元気にしてた?」

クロ

「いや、死に掛けてた」

まさかのフレシアに遭遇

フレシア

「どんな暮らししてるのよ」

クロ

「下僕」

プレシア

「苦労してゐるのね」

あつはつはー！

あれ？ 目からじょりぱい水が…

クロ

「で、なんでーーー？」

プレシア

「ここのあたりに越してきたのよ
管理局に協力も依頼されてるしね
アリシアも一緒に？」

マジカ……

クロ

「じゅあい近所さんか」

プレシア

「そうね

あ、そういうえばフェイト達があなたの事探してたわよ？」

おおへつと触れられたくない話題だ

プレシア

「あなた何したの？」

クロ

「ちよつとした手助け」

プレシア

「とんでもない手助けにしか思えないわ……」

俺はどんな認識なんだろう?

まあいいや

クロ
「じゃあ走りこみの最中だからこれで」

プレシア

「トレーニングでもしてるの?」

クロ

「鬼教官の所でね」

そのまま一周して帰つたらシグナムさんに後99周して来いって言
われてまた走りこみに出た

最後には完全に深夜で誰もいなかつた
ものつそい寂しかつたです。はい

第十一話 鋸匠ができた（後書き）

やつひひました

クロがどこまで強くなるかは……

アンケートで

ネタバレしないようにさればメッセージをお願いしますね

- 1、最強
- 2、つよい
- 3、戦力外、ギリギリ
- 4、ガンブレードがいなければ役立たず

のどれかです

ついでに今は4だと思つてくださいね

皆さんの投票お待ちしております！

第十二話 サンドバック（前書き）

今日は色々あります「じゅわーじゅわー」です
なにがあつたか?
ご想像にお任せします

第十三話 サンドバック

「死ねる……」

「マスター甘屁は第一からヤサギ

いや……精神と肉体は回復しないからね？

シグナム

「死なないのか？」

ついでに今は別世界？でシグナムさんに修行してもらっていたところ
今準備運動と力量を測るために称した模擬戦（一方的なフルボッコ）
が終わつたところ

シグナム

「ふむ……なら防御面を鍛えるか
攻撃に関しては役立たずどうぜんだからな」

酷いツス•死ねるツス

シグナム

「今日から防御面を鍛えるために模擬戦の後に私の攻撃を30分受け続けてもらつ

それで少しは防御できるようになるだらう。

要するにがんばって中身の砂をふちまげないサンダバックになれってこと?

無理無理無理無理！

クロ

「そんなことしたら精神崩壊しちゃうよ！」

シグナム

ク
口

「らめええええええええええ！」

はやて

「お帰……シャマハ、手當て」

シャマル

「はい……」

勝つてきて即行はやてから手当て指令

まあ普通だよね
だつて……

クロ

「…………」

俺目がいつのでボツロボロだもん

その後シャマルに治療してもらい、はやてに気になっていたことを
聞いた

クロ

「なにか頼み事でもあるのか?」

はやて

「なんで?」

クロ

「このじろり態度が違うだろ?
だからなにがあるのかと……」「……」

妙に優しいし、気を使ってくれるし……

はやて

「あ、バレた?」

やはつ何があるのか……

クロ

「まあできる範囲ならなんでもするよ~。」

はやて

「いや、このじろりシグナムが楽しそうやからな?」

で、楽しそうにじてるとそれは大半クロがボロボロやか……
まあ、謝罪の一つ?」

なんだそんนことか

クロ

「気にしなくていいぞ?」

はやて
「え?」

クロ

「だつて俺はシグナムさんに修行つかひもひつてるほうだし(強制的に)
おかげで防御魔法もうまくなつたしな?(ボツ)されたための防衛本能)

なにより掃除してゐよつはいひちも楽しめてるし(遠まわしに今までの拷問だといつてゐる)

別に気にしなくていいぞ?」

はやて

「今でもつと悪い事したよつな気持ちになつたわ……

なぜ?

シグナム

「クロ、夜にまた行くぞ」

クロ

「はーい……

今夜までに思い出を作つておかねえやな……」

はやし

「まあ……がんばってな?」

クロ

「うん」

今日は町にてガソブレーーーと色々回る所とした
お金はあるよ?

この前宝くじが当たったんだ!

しかも3万!

これら、「 しょぼこ」と言つた

しうもないとか「 しょぼい」とか言つてゐる人は金銭感覚が麻痺してゐる

恐れがある

病院に「 しょぼい」とをねかすめある

そんな訳でその辺を「 しょぼい」としたんだけど……

クロ

「ガソブレーーー」

ガソブレーーー

「なんですか?」

クロ

「これなんだと思つ?」

ガンブレード

「『ミミ』ですかね？」

ガンブレードの意見は『ミミ』か……

クロ

「俺には違うものに見えるなあ～」

ガンブレード

「なんですか？」

クロ

「そりゃ～……」

見たとおりの……

クロ

「やばい人たち？」

パンチパーマの人

「お前らなに喋つとんねん！」

リーゼントの人

「はよ金ださんかい！」

皆さんわかりますか？

怖～いおじさん達に絡まれてるんですよ
え？冷静？

そりゃあ……

クロ

「なんでお金出さなきゃいけないんですか
何もしてないですよね？」

パンチ（「γ

「通行料じゃ！」

リーゼン（「γ

「やからはよ出せー！」

この人たちよりシグナムさんのほうが100倍怖いよ……
一応身体能力高いからね？

ホントウデスヨ？

ミセマショウカ？

不負腐怖斧……

リー・パン

「「はよせんと殴るぞ！」」

クロ

「うるせえ！こちどらてめえらより怖い人に毎日ボッコされてんだ！
怖くもなんともないわあ！！」

あの人には勝てる一般人なんかいねえよ！
一般人からしたら最恐の人だよ！

リ

「こんのがキヤ……！」

パ

「こでこまじたるわあー。」

クロ

「うぬせえー。（ガーン）」

拳骨

クロ

「第一なんなんだよ！
なんで関西弁なんだよ！
普通、いつも、なんか、違う、あれだ……
あーデチキシヨウー！」

田代のストレス爆発

クロ

「こいかー（ガス）てめえ、じきに遅れをとつてたらなー。（ガス）

」

まずはリーゼントから顔面に入れてすぐフック

クロ

「俺はとっくに死んでるんだよおおおおおー。（カキーン）」

パンチパーマにアップパー

クロ

「わかつたらとつとビックに行きやがれー！」

リーゼント

「くそー！覚えてろよー！」

パンチパーマ

「てめえの家に行つてやるからなー。」

クロ

「それはやめろー。」

掃除が大変だから！

リーゼント・パンチ

「あばよー。」

いつたか……

ガンブレード

「マスターが一人で勝つたとこ始めてみました」

クロ

「あ、そこなんだ？」

キレたと同じじゃなくて

クロ

「まあいいか……

さて、どこ行こうか？」

ガンブレード

「久しぶりに翠屋のケーキが食べたいですね」

クロ

「おお、それいいね！
いいひー！」

行き先決定！

すぐに向かうことにして

が

(ブーン……)

一匹のハエが俺とガンブレードの間に……
あれ？ なにか悪寒が……

ガンブレード

「キヤー——ハエ———！」

そういうえば虫苦手なんだっけ？

かわいいところもあるよな、はつはつは

ガンブレード

「サンダー……」

え？

ガンブレード

「ブレイク！」

クロ

「なぜええええええええええええ！？」

その日原因不明の雷が一つ鳴り響いたそうな

クロ
「ガフ……」

ガンブレード
「すいません…マスター…」

クロ

「いや、もういいよ……
早くいって帰るわ」

ガンブレード

「はい」

この時、これから向かう場所でなにが起るのか2人は知らなかつた

第十二話 サンドバック（後書き）

向かう場所は翠屋

そこに居るのが誰か……

わかりましたか？

わかると思つて書いてます

どんな田にあうかはまだ決めてませんけどね
ついでに時期は一回田の交戦のあとぐらい
だと思つ……

番外編といつなお隠りせ、ちやんと聞こへよ。（前書き）

ちやんと聞いてくださいね？
皆さんの協力が必要ですから

番外編といつなのお知りなさい、ひやんと聞こへよ。

作者

「てな訳で番外編だよ~」

クロ

「いきなりなんだよ

まさか……」

作者

「そう! 知ってる人は知っているあれの報告ともう一つのことだよ
!」

ガンブレード

「あれといふとあれですか……」

作者

「うん、『これからこの作品にピンクを導入する』ってやつだ

クロ

「マジでやめてくれよ

他の作品のオーナーみたくなりたくないねえよ~」

作者

「だまらつしゃい

お前に拒否権は無い!」

クロ

「マジカ……」

作者
「マジだ

そしてこれは仲がいい作者の皆様とチャットをして決めたことなので、「やめてくれ！」って感想がこない限りやめない

ガンブレード

「といつてもどうするんですか？
いくらマスターがイケメンでもこれからフラグを立てるのは難しい
ですよ？」

性格はあれですし……（ボソッ）

クロ
「聞こえてるぞ」

作者
「とりあえず、空白期でフラグたてて、Statsで修羅場にするつも
りだ」

クロ

「ああ……もうここにや……かつてにやつてくれ……」

クロちゃんがログアウトしました

作者
「さて、いままでの話ただの前置き

本命はこれ！」

『クロにフラグ立てられてなのは達と激戦を繰り広げるヒロインの

募集』

ガンブレード

「てっきり私がマスターと結ばれると想つてました」

作者

「ん? なにいつてんの?」

ガンブレードも争奪戦に参戦するよ?」

ガンブレード

「.....それは冗談ですか?」

いや、冗談ですよね」

作者
「マジ?」

ガンブレード

「.....は?」

作者

「だからマジだつて

これから君はクロをめぐつて行われる激戦に参加するんだよ

ガンブレード

「なんですか

なんであんなダメなマスターを奪い合つて戦争に参加しなきゃいけないですか」

作者

「君が居ると面白そうだから」

ガンブレード

「もう二度とです。

勝手にしてください……」

作者

「うむ、今度はやがてあいつの口をもじれたがとりあるぞ

今回の応募は「ちら！」

『クロにフラグを立てられるキャラ募集!』

- ・ 別に男性でもOK
 - ・ 登場は空白期、またはS t sからになります
 - ・ 名前、性別、性格、容姿を記入した上でメッセージで送つてください
 - ・ クロにフラグがたつた後正確が変わる恐れがあります
 - ・ この人いたら面白そう、という作者の判断で決定します。私や他の作者様、決定されたキャラへの迷惑行為、罵倒などはおやめください
 - ・ 参加資格とかはありません
 - ・ まりもでもOKだ
 - ・ リアルで友達に聞いたりしてそこから決めたりもするかもしれません

「以上！」
作者

ガンブレード

「無駄なのがある気がするんですが……」

作者

「『咲のせいだと思え!』

ガンブレード

「あるんじゃないですか……」

作者

「どうあえず一のはやフロイト、はやても参戦しますから、それなりに強くな」とゲームオーバーになりますから!」注意を!」

ガンブレード

「はあ……わざわざです……」

作者

「咲ちゃんの応募待つてます!」

ガンブレード

「本編ひりちゃんと進めてくださいよ?」

作者

「ワカツ テマスヨー
チャントシマスヨー」

ガンブレード

「はあ……」

作者

「安心しりよ、ちやんとうちうまで終わらせるか!」

ガンブレード

「読者様を待たせなによつてくださによへ」

作者

「モチロンサー」

募集期間は適当…いいのが決まつたら終了…
みなさんよろしく…」

ガンブレード

「協力してやってくださいね」

作者

「お願いします！」

番外編といつなお知りせ、ひやんと聞こへよ？（後書き）

はい、てな訳で募集します
人数制限？ナニソレオイシイノ？
では待つてます！

第十四話 失敗×成果×交戦（前書き）

タイトルがハンター×ハンター風だけど気にしないでください
さて、どうなるかとやら
どうぞ

第十四話 失敗×成果×交戦

俺とガンブレードは翠屋についた瞬間引き返す」とした
なぜかつて？

簡単だ、どこかでみた縁の紙のロングの女の人が中に居たからだ

クロ

「危ない危ない・・・・・」

ガンブレード

「そういえば」「」て奈埜霸さんの両親が経営してましたね」

なのはの字が違つよくなあつてるよくな・・・・・

クロ

「とりあえずまことになつたな・・・・・」

ガンブレード

「はい・・・・・」

クロ・ガンブレード

「「これから翠屋のショークリー・ムが食べられないじゃないか！」」

大好きだったのに・・・・・

クロ

「残念だ・・・・・

まさかこんな」とになるとは・・・・・

ガンブレード

「仕方ないですよ
戻りましょうか」

クロ

「うん、 そうしよう」

シャマル

「あら？ 早かつたわねえ」

クロ

「翠屋に行こうとしたんだが・・・・・
ホワイト・デビルの両親が経営してたのを忘れてた・・・・・」

シャマル

「そうだつたの～
じゃあ手伝ってくれない？」

クロ

「なにを？」

シャマル

「これ」

そういうて出したのは弾丸

クロ

「いや、 ちょっと鉄砲玉は勘弁願いたいです」

シャマル

「違うわよ

なんの鉄砲玉よ」

冷たくあしらわれた

クロ

「え？ もしかして薬？」

シャマル

「違うわよ

こいつやって魔力を込めるの

(キイイイ・・・・・)

おお・・・・・

クロ

「わかりました
やってみます」

弾丸を握り、意識を集中

さして弾丸に魔力を込めて(ボン)「あつうー?」

爆発しましたよー??

シャマル

「あらあら・・・・・

もう少し手加減しないと

普通は必要ないんだけどね・・・・・

ああ・・・・・・・ そういえば魔力だけは多いんだっけ？ 無駄だけど・
・・・・・

なんでこんな体なのやう・・・・・

クロ

「じゃあもう一度・・・・・・・ ふつ！・・・・・・・ できたー！」

シャマル

「早いわねえ

じゃあ後よろしくね

クロ

「え？」

シャマル

「私は休んでるから

ナンダツ テー

そりゃないよシャマルさん・・・・・
しばらくやつていて気がついたこと
数が増えていつている・・・・・
なぜか、その答えは簡単

ガンブレード

「

となりでガンブレードが上機嫌で次々と同じものを作り上げていい
ている

いや、要領はガンブレードが作った物のほうが上かな？
これはガンブレードが作るのをやめない限り休めないな……

で、夜

なんとか終わったと思つたら口ひつ子から呼び出し
なんか知らないけどややこしくなつてゐから」ことのじと

クロ

「なんで俺を呼び出すんだよ…………」

このじと寝不足なのに…………」

ガンブレード

「仕方ないですよ

マスターは使いやすいですから」

どうじうじうひちゅねん

要するに俺はパシリに向いてるってか？

まあもと居た世界ではパシリでしたよ？ええ
なにか？

クロ

「どうあえず向かうか」

すぐそこだけど

ガンブレード

「あれじゃないですか？」

あれだね

100パーセントあれだね

だって赤い衣装の口りつ子が宙に浮いててその隣に褐色のムキムキ
が浮いてたら間違いないでしょ

ザフィーラと一緒にって言ってたし

クロ

「お~い、ヴィータ～ザフィーラ～」

ヴィータ

「おせえー！」

クロ

「すまん！

で、状況は？

ヴィータ

「囮まれてる

でもこいつら弱いぞ」

そうかいそうかい

クロ

「今こそ！シグナムさんとの修行の成果！
發揮するとき！やああああああ！」

職員A

「はっ！」

クロ

「ぐへええええ！」

ヴィータ

「弱い！」

クロ

「めんぼくねえ・・・」

強くなりたいとほじめて願つた瞬間だった

ヴィータ

「ん？離れていくぞ・・・」

ザフィーラ

「上だ！」

え？上田？

クロノ

「はあ！」

なんか振ってきたーーー！

クロ

「俺が防ぐ！

ガンブレード！」

ガンブレード

「了解

シールド！」

田の前に半透明のシールドが展開される

クロ

「ふはははははー、ガンブレードのシールドに敵な（バキ）え？」

まさか・・・！

ガンブレード

「あ、やつちやこめしたねえー」

じこつ・・・！

クロ

「はかつたなああああああああああああああああーーー！」

(デジタルデータ)

ギヤーッス

ヴィータ

「大丈夫かー？ ネコー！」

クロ

「あい・・・大丈夫です・・・・・・」

死にかけたけど・・・・・・
ん？ あれは・・・・・・

((ガンー))

カツ「Eーなんかカツ「Eー！

なにあれ！？なのはどフHイトー？

たくましくなつて・・・・・お兄さんうれしごー（寝不足ハイ

テンション中）

にしてもかつこいいなあ

あの2人がならんで立つと

クロ

「よしーおもしろくなつてきたー！」

ガンブレード

「そうですね

またマスターの情けない姿が見れますし」

おいおいひでえな

クロ

「今日の俺は一味違ひがー！」

ガンブレード

「本当に一味しか変わつてしませんがね」

うるひやー！

クロ

「おお！？新しい変身ー？」

よし、移動して近くで見よう

こうこうのは最初以外はあつさつやつちやうから見れないんだよねえ

記念記念

クロ

「おお！何が変わったのかわからない！」

まあいいか

(ズバン!)

クロ

「アベシベシーー！」

上から何か降ってきた

いや、紫色の雷とともにシグナムさんが振ってきた

シグナム

「む？ なにをしていろ？」

クロ

「踏まれてます

あなたに」

シグナム

「そうか・・・・・」

あれ？

・・・・・ああ～フェイドのほうを見てるなあ・・・・・
やつぱりあれかな？ライバル意識つてやつかな？
なのはさんはヴィータのほう見てるし、アルフはザフィーラ?
同じ狼だからかな？

クロ

「と、こいつとは…………（チララッ）」

あまりものsか・・・・・
あ、クロノがどつかいつた
つてことは・・・・・

クロ

「ユーノ！」

ユーノ
「！？君はー！」

クロ

「久しぶりだな！
元気してたか？」

ユーノ

「ああ、でも君は敵じゃないのかい？」

クロ

「いや、何言つてんだよ
俺たち心友だろ？」

さあー共に語らおうじゃないか！

ユーノ

「・・・・・すまない、記憶に無い」

・・・・・そうか・・・

クロ

「やつかそつか

ならばー・ガンブレーダー・」

ガンブレーダー

「解

手出しませ?」

クロ

「無用!

いくぞゴー!」

思て出すまで戦つてやるー!」

ゴー!

「よくわからぬけど、探索の邪魔をするなら容赦はしないよー!」

わい、どうやって戦おうかね?

ゴー!つおこんだよなあ・・・・・・

第十四話 失敗×成果×交戦（後書き）

はい、ユーノと交戦開始です
さて、クロは勝てるのか！？
そして描く勝負の行方は！？

原作見てから決めます
はい

では次回を乞うて期待！
あ、前の番外編で話してたあれ、
Stylskらいまで続けるんでしょう
しくお願ひしますね

第十五話 はつはつは、チート？わかるてる（前書き）

勢いで本田一話田

一日で一話田投稿したのいつ以来だっけ・・・・
まあ今回はじいできだと思ひますよ（最後のほうだけ）

ではどうぞー

第十五話 はつまつま、チート？わかるてる

(ドガアー！)

クロ

「グッハア！」

くつ！ やるな！

ユーノ

「いや、まだなにもしていないんだナビ・・・・・・・・

うぬわい！

俺だつて壁にぶつかることぐらこあるわあ！

シグナムさんとの修行の成果！

それは！

クロ

「この驚異的スピードを自在に操ること俺についてこれるか！？」

そう一っこに扱こられるようになつたんだ！

いや～逃げてるつむけつけの間にか・・・・・・ね

ユーノ

「え？ 今の自滅は・・・・・・

クロ

「なんのことだ？ そつぱつわからん
いくぞー！」

ユーノ

「ー・はあ！」

クロ

「グバアアア！」

(ガンー！)

結界にぶつかった・・・・
あれ？シャマルがクロノにチェックメイトされて・・・・あ、
クロノ吹っ飛んだ
あれ誰だ？見たこと無いんだけど・・・・
まあ、助かってるのかな？

ユーノ

「はあ！」

クロ

「危なっ！？」

今はこっちに集中しよう

どうなったものかわかったもんじやない！

クロ

「まつたく・・・・危ないだるー！」

ユーノ

「・・・・・・防御したほうがよさそうだな・・・・

ん？なに？俺が攻撃するとしても？ははははは

俺は攻撃には向いていないよ？
え？ 後ろ？

(クルリ)

なあにあれ？
なんかダークな感じの雷が結界に当たって・・・・・・あ、ヒビが
入った
これでれるんじゃね？

クロ

「もしかしてシャマルかな？
よし！ でれるやつ（ズドオオオオオオオ）なんてこつたああああ
ああああああ！！！」

非常に痛いです！

死にたくなるくらいに痛いです！

ガンブレード

「マスターは死ねませんけどね」

クロ

「何ちやっかりシールド張つてんだクラアー！」

ガンブレード

「仕方が無いですよ

無傷で住むためには私一人が限界です」

クロ

「そんな殺生なああああああああ！！！」

セイジの意識は途絶えた
さすがに鍛えた体でも「れはきつ」

はい、「都合カギト

クロ

「う・・・うん?」

今果てしなく「う」と「う」このものが居たよつな・・・・・・

ガンブレード

「田が覚めましたか?」

クロ

「セイジは?」

ガンブレード

「シグナムさんが運んでくれたんですよ
弟子だからって」

シグナムさんええ人や・・・・・・!

シャマル

「はい、すいません。なんとかまつたこやつ・・・・・・」

あれ?

クロ

「シャマルどうした?
てかみんな暗いな」

ガンブレード

「今日は晩さんでお鍋を食べる予定だったらしいんですよ」

わあ、初耳だ

クロ

「そうだったのか・・・・・・
遅くなつたからねやめておいたんだろ? なあ・・・・・・」

あれで結構寂しがりやだからなあ・・・・・・

なんで知ってるか?

なんか、シグナムさんから聞いた

ガンブレード

「とりあえずマスターはもつと強くならなきゃいけませんね」

クロ

「うん最低職員じくらいは倒せなことな」

Aにボロ負けだつたし

クロ

「がんばれ!」

ガンブレード

「はい、がんばってください」

うん、がんばるわ
さて、シグナムさんは・・・・・ベランダでなんかシャマルと話
してゐ・・・・・
血主トレかな？

クロ

「ガンブレード、どうにかしてトレーニングする場所作れない？」

ガンブレード

「簡単ですよ
ちょっとまってください・・・・・できました」

はやい！アイテムクリエイト能力でもあるかのように早い！

ガンブレード

「アイテムクリエイト能力があるのですぐにできあがりました」

あつたんかい！（まだテンションが高いまま）

ガンブレード

「ENといえれば入れますよ」

クロ

「え？ EN？（ギュンー）ああー？」

すここまれた

ガンブレード

「この中では向ひ一時間が過ります | 日が経過します
修行にはもつてこなさずですよ」

いや、それより・・・・・

ガンブレード

「あ、年老いたつとかは氣にしないでくださいね
逆浦島にはなりませんから」

そうではなく・・・・・

クロ

「もっがもがもが（引っ抜いてくれ）もがもががもが！（
ピクンのようになー）」

髪の毛以外は全て地中なんで

ガンブレード

「何言つてるかわかりませんよ？」

クロ

「もが（いや）もがもがもが！（お願ひしますー）もっがもがも
がもががもがが！（窒息死する前に抜いてー）」

ガンブレード

「よく言えました」

同じだけどね

(スポン)

クロ

「ふう・・・・・・ありがと」

ガンブレード

「どういたしまして」

クロ

「さて、強くなるためにほどいすればいいかな?」

シグナムは修行あるのみ的な発言してたけど
ん? そういえばそもそもなんで修行し始めたんだっけ?
あ、シグナムに強くなれって言われてか・・・・・忘れてた
ん? そもそもなんで(略)

結論

俺が修行している理由ははやての命を救うため

クロ

「うわあ・・・・・重い・・・・・」

ガンブレード

「ですね」

わかるのかよ!
てか思考読むな!
もうなれたけど

クロ

「でも闇の書のせいでそつなつてるんだつたら一旦バラしてシステム組みかえればいいのになあ」

ガンブレード

「マスター、今なんど?」

クロ

「え? だからバラしてシステムの組み換えを……」

ガンブレード

「それでこきましょ!」

は?

クロ

「え? なに? できるの?」

ガンブレード

「私一人では無理ですが
あと一人天才がいればできますね」

ははは、ガンブレードに並ぶ天才なんて・・・・・
1人いたっけ・・・・・

ガンブレード

「早速事情を話して来もらいますね」

行動が早いな

アリシア

「来ましたよ」

クロ

「早っ！？」

光超えたんじゃね？

ガンブレード

「来ましたね、じゃあもうひとの説明を」

アリシア

「わかりました」

いつた・・・・・向ひに

俺はうるせこのだらうか？

フレシア

「アリシア・・・・・いい友達ができて・・・・・うれしいわ

クロ

「うおー？ いつのまにー？」

フレシア

「アリシアあるじにフレシアあつよ

それは子離れできていないだけでは・・・・・

フレシア

「細かい」とはきにしないの

この世界の女性はみんな心を読めるんですか？
まったく恐ろしい世界だ

クロ

「とりあえず、待ちますか」

プレシア

「そうね」

なんであんたまで？

プレシア

「暇だからよ」

さいですか・・・・・

第十五話 はつはつは、チート？わかってる（後書き）

てな訳で、闇の書はどうなるのか！？

はたまたフェイトにばれないのか！？

そしてプレシア一家は光を超えたのか！？

プレシア

「元からスタンバつてたのよ」

ばらさないでください
ではまた次回！

再び番外編 うれしかつたから仕方が無い（前書き）

タイトル見た人へ

これを書き始めた頃は幸せでした……
はどうぞ！

再び番外編 うれしかったから仕方が無い

S y u r a

「よし！今回も番外編！」

クロ

「多くないか？」

ガンブレード

「ですね

ここまで多いと読者が減るのでは？」

S y u r a

「いやね、実はね、これ

クロ

「…………」

ガンブレード

「…………」

クロ・ガンブレード

「…………は？」

S y u r a

「祝！PV30000→ニーケ50000→！」

クロ

「こいつのまに？」

S y u r a

「あと確認したらこれ書いてる前に田のPとHマークが約3000と約450だった」

ガンブレード

「こんな駄作がこんなに読まれてるなんてびっくりですね～」

S y u r a

「いや～本当にこりまできたんだな～で、感謝の気持ちもこめて何かやりたいんだけどどうするね～」

クロ

「いやそれ考えとけよ」

S y u r a

「勢いで書き始めたのに考えてるわけあるかあ～」

クロ

「なぜキレる……」

ガンブレード

「ではむしろとしたヒンケなじまつかがですか？」

S y u r a・クロ

「たとえば？」

ガンブレード

「マスターに関連する友情話とか」

クロ

「ああ～なるほど～でもやんなのあるの?」

Syura

「考えれば無くもない
しかしそれを書き始めたらやたら長くなる可能性がある……」

クロ

「別にいいんじゃな～? ひとつあえずがんばつて今日中に書き上げよう」

Syura

「そんな殺生な! 他の小説も投稿しなきゃいけないのに…
一つはイメージだけはあるけど……」

ガンブレード

「まあやればでも出すよ」

Syura

「いや、そんな事いつても……」

クロ

「ここからやれよーやればできるー…」

Syura

「うん、だから……」

クロ・ガンブレード

「フアイトオー!」

Syura

「これから君達はそんなキャラになつたんだい？
もつこいよ……書くよ……でも本編もやらなきゃまずいから今田中
は無理かもしねない」

クロ・ガンブレード

「…」

S y u r a

「ねー！ うーなこーへーかー！ うー？」
「これでもがんばってるほうなんだよ！ ？」

今日中に他の小説も投稿してこの小説も投稿してたら200000文字超すわ！」

クロ

「黙つて書けよ～」

ガンブレード

「それら作品の唯一の作者なんですか～～」

S y u r a

「はいはい！ わかりましたよ！ 書きますよ！
はあ……今日は頭がどつかるや～～」

S y u r aが退室しました

クロ

「ねー、どうなるかとや～～」

ガンブレード

「さあ？ わかりませんね」

クロ

「ただ一つわかるのは……」

クロ・ガンブレード

「『原作は無視して作るって事だね!』」「（時系列やらなんやら的
に）

再び番外編 うれしかったから仕方が無い（後書き）

はい、てなわけでいってきます！

今日中に四話ぐらい書かなやせやなあ……

第十六話 最終決戦、前日（前書き）

遅れてすいません！

本当にすいません！

活動報告でも謝罪しましたが、ギターを譲りにいくとこのへりと
を忘れてまして……

本当にすいませんでした！

クロ

「どうあれ、……」

ガンブレード

「あつあこせんじょうか？」「

では逝つてきます

第十六話 最終決戦、前日

ガンブレード

「では、今から改造を始めます
準備はいいですか?」

「…………はい！」

アリシア

「ではまず……」

ただいまガンブレード&アリシア&管理局のメカニックによる闇の書改造作業が行われています
こつなつた理由は一週間ほど前にさかのぼる

ガンブレードとアリシアは2人で数時間考え込んでいた

クロ

「暇だな

UN やらうぜ、フレシア」

フレシア

「いいわよ
でも私強いわよ?」

クロ

「上等」

さあー今こそ　が始まるー。

ガンブレード
「ではこれでござましょ！」

アリシア

「そうですね
これなら闇の書も暴走せずになおかつ迅速にことを進めることがで
きますからね」

ガンブレード

「ではマスター

早速ですが管理局に行つて協力を依頼してきてください」

しゅーりょー

始まつても居なかつたのに……。おれ
つて、え？

クロ

「今なんと？」

ガンブレード

「ですから管理局に協力を依頼しに行つてください
プレシアさんと行けば何とかなると思いますし」

クロ

「ええ～……それ絶対〇 H A N A S H I フラグじやん……」

ガンブレード

「いいから行つてきてください

それともここでずっと生活しますか？」

外に出るためにはあるキーワードを言わないと出れませんよ。」

クロ

「ありがとうございます」

うん、誤字じゃないはずだ

フレシア

「じゃあアリシア、行つてくれるわね」

アリシア

「はい、早めにお願いしますね」

で、管理局

へ、向かつ途中のちょっととしたやり取り

これ大切

多分……

クロ

「そういうアリシアってさ

フレシア

「なによ？」

クロ

「あんたから聞いてた人物像とかなり違つたんだが……」

フレシア

「そつかしら?

今でもかわいい笑顔だし、甘えてくれるし、病気にならないようにつて作りたての薬をくれたりするわよ?」

クロ

「それは前半親ばか後半実験対象にされてるだけな気が……」

フレシア

「どうでもいいわ
早く行きましょう」

管理局

なのは

「あ、フュイトちゃんのお母さん……と……クロさん……ちよっとこ
っちにに来てもいいの」

オワタ

そのときはちよつと
しかし!――

フレシア

「ちよつとまつて

この人は大事な用できたの
リンティーさんを呼んでくれるかしら?」

なのは

「む～、ちょっと座しいけび……
うんー呼んできますー！」

うるうる、なのせさんもまだまだ子供だねえ……かわいいといふも

ある

あとでここ下にこ下してあげよつかな？

魔王砲がこなごことを祈つて

そのあとコンディーといつ人と話をしつ、しばらくフレシアと拘束
されつつ〇 H A N A S U れつつ待つていたら〇 K がでつ……

現在に至る
にしてもあれは……

フレシア

「どうしたの？変な顔になつてるわよ？」

クロ

「いや、なんでもない」

決して〇 H A N A S U の内容を思い出して恐怖していたわけ
じゃない

フレシア

「あら？終わつたみたいね」

早いーF1レーサーもびつづつの早さだ！

ガンブレード

「あとは最後の作業ですね」

え？

アリシア

「私達の魔力を注いで防衛システムを起動、そしてハ神はやてさん
に闇の書の主人格を説得してもらえば」

ガンブレード

「主人格が姿を見せるはずなのでそのつながりを切れば主人格と体
の切断ができるはずです」

アリシア

「そこを一旦こちらのデバイスに主人格を保存、そして総攻撃して
モンスターを排除」

ガンブレード

「これで闇の書の中の主人格は守られ、なおかつ闇の書から暴走す
るシステムを削除できるはずです」

交互に説明してくれるのはいいんだが……
首が痛い……

クロ

「先生、質問です！」

アリシア

「はい、つて誰が先生ですか」

クロ

「闇の書に主人格なんてあつたんですか？」

アリシア

「はい、少し中を見てみてかららしきデータが発見されました」

ガンブレード

「ですが、それを術者の意思で切り離しができるようにしておきましたので安心して攻撃してください」

クロ

「へえ～、どうで何をやつたの？」

アリシア

「魔力での干渉です」

ガンブレード

「私達の魔力だけでは足りないので管理局の方にも協力していただきました」

「管理局の人たちは魔力貰うだけだったのかよ……なんかかわいそう……」

リンディ

「ちょっとといいかじらっ？」

ガンブレード

「なんですか？」

リンディ

「魔力を注ぐつて危険は無いんですか？
なのはちゃんの前例がありますし……」

アリシア

「ああ、それなら大丈夫ですよ」

ガンブレード

「ちゃんとリンカーノアではなく、魔力を吸収するようになりました
から」

そこまでできるならなぜ主人格をはがさなかつたんだ?
疑問だ……

ガンブレード

「では皆さん準備をして明日またここで」

アリシア

「しつかりとデバイスの調整はしておいてくださいね?
総攻撃で消滅させるので負担がかかりますから」

そんなに本気でやらなくてもいいんじゃ……

シグナム

「ついに主を救うことができるのだな……」

シャマル

「そうね……」

ヴィータ

「よかつた……よかつた……！」

ザフィーラ

「…………」

あの四人は本当にはやてが大事なんだなあ
うん、俺もがんばろう
でもどうしようかな？

ガンブレードが居ないと主人格の保護はできないだろうし
かと言つてそれだと俺は役立たず以外のなんでもなくなるし……

どうしよう？

クロ

「シグナムさん」

シグナム

「どうした？」

クロ

「明日までに高威力の技を覚えたいです
教えてください」

シグナム

「簡単だ、気合でできる」

こんな人だつたっけ……

なんか俺とあつてすぐはこんな人じゃなかつた気がするんだけど……
もしかして俺のせい？

クロ

「じゃあ明日までにがんばって新技作ります」

基本は前にユーノに教えてもらつたし、ユーノデバイスなしで強い
からなあ……

俺にもできるだろー！

それぞれが準備をして明日に備える

そんなときにはクロは新技を作ろうとしていた

魔法の原理を無視して

第十六話 最終決戦、前日（後書き）

Syura だつたもの
「…………」（ビクン、ビクン）

クロ

「これで懲りたか？」

ガンブレード

「さあ？まだやつたほうがいいかもしませんね」

Syura

「うう……月光、回復たのむ……」

月光

「かしこまりました」

クロ

「あ、確かお前の使い魔だっけ？」

Syura

「うん、超できる人で、ガンブレード級に役に立つよ」

ガンブレード

「とりあえず、反省の色が見えないので……
みなさん」

Syura・クロ

「「え？」

シェリア

「なんだか久しぶりの出番ですねえ」

シャルン

「私もです」

魔王

「そりゃ、なら制裁を下さよつ
このバカになー!」

アリア

「皆さん元気ですねえ」

Syura

「Sな方々 + 1! ?」

魔王

「誰が + 1だ誰が!
よし、このバカは殺そう」

Sな方々

「「「「同意」「」「」」

Syura

「Aaaaaaaaaaaaaaa! -!」

クロ

「では皆さん、作者は『』覽の通り赤いもんじゃ焼きにしておきます
ので安心を

そして無計画な作者でいいませんでした！
これからもこんなバカやらかすと思いますが、そのときは拷問器具
など送つてやつてください」

Syura

「やめろ――――！」

ガンブレード

「マスター、手伝つてください

月光さんも

クロ・月光

「『解です』」

Syura

「そんなバカな――――！」

(グチヤン！)

決戦前夜 真夜中の説明会（前書き）

遅くなつてしまふやせんつしたあ！
受験勉強がきつくて……

では書くのもなんでどうやら

決戦前夜 真夜中の説明会

クロ
「おやすみ～」

なのは
「おやすみなさい
もしこの部屋から一歩でも出たら警報がなるよっていふから丑
うとしないでね」

はいみんなさと…… いんばんは?
ただいま管理局の一室に居ます
ここで寝ることになつたんですが、それその話のよつて警報装置が
ついてらじくて自由が聞かない状態
まあそれがなくとも

クロ
「この拘束解いてくれない?」

なのは

「ダメなの」

ギッヂギチです。はい
どこから情報を得たのかいつかの誰かにせつた縛り方だし……
これマジで動けねえ……

なのは
「じゃあガンブレードさと、クロさんの監視よろしくね～」（シコ
（ン）

なのはさんばどこかへいった

クロ

「ガンブレード、もう寝ようか
起きても何も出来ないし」

ガンブレード

「そうですね」

ついでに、ガンブレードは人型
なぜか俺より信頼されてて俺の見張り係

さて、寝るとしますか……

ＺＺＺ……

クロ

「ん……ふあ……

……………」

目が覚めると真っ白な空間に居た

S y u r a

「やあやあクロくん！
お田覚えかナアバアー！？」

クロ

「とりあえずここはどこなのかと、ここにつれてきた理由をはけ

Syura

「ぐふう……いいパンチだ……」

じゃなくて、ここはお前の精神世界、そしてここに呪つてきた理由は他でもない

読者の皆さんのが訳わからなくなってる可能性があるから説明をするためにここに送り込んだ！」

クロ

「で、なにを説明するんだ？」

Syura

「とりあえず、ガンブレードとアリシアが闇の書をどうしたかあと、それぞれのキャラたちの設定だな」

クロ

「じゃあサクッと行け、サクッと」

Syura

「もちろんそのつもり！
ではどうぞ！」

闇の書の状態について

- ・ヴォルケンズはガンブレード達によって切り離され、今ははやての使い魔的な状態
- ・魔力の吸収はリンクアーコアでなくともよくなり、さらに相手の特徴を受け継ぐこともなくなった（今までのは蓄積済み）

・切り離した直後に「デバイスとして使えるよつたな改造を施されている

Syura

「闇の書に関してはこれぐらい?」

クロ

「お前……なんてこと……」

Syura

「まあ原作にかぶつてる部分あるかもしませんがね」

クロ

「?原作?」

Syura

「ああ、君は気にしなくていい」とだよ~

じゅあ次!

オリキヤラ、原作キャラ（一部）の設定

- ・ガンブレードはリンクアーコアが存在し、魔力は自分で出す」とも出来るがクロから受け取つて蓄積したりもできる
- ・ガンブレードは常にクロさんの魔力と同等の魔力を持つている（なのはクラス）状態がよければ最高一倍）
- ・アリシアのデバイスの中に例のやつ等（番外編参照）が入つており、一体づつ出すことができる
- ・アリシアは普段は例のやつ等の技を使って戦つている（超強いよ）
- ・フレシアさんはノリで魔王砲を撃てる

Syura

「じゃんもんかな！」

クロ

「までえええい！……！」

Syura

「どした？」

クロ

「プレシア強すぎだろ！？」

ノリで魔王砲！？じんだけ強いんだよ！」

Syura

「あの人は肺癌さえなればお前など塵になっていたぐらいの力を
持っているのだ！」

そしてノリで打つけど何回もはさすがに撃てないよ？」

クロ

「それでもすゞじよー？」

Syura

「今日はこじこまで！
ではクロよー逝つて来い！」

クロ

「おう！ん？字に違和感が……」

Syura

「死ねば起るつてこつよなあ？」

クロ

「え？ なんで魔法方の準備を！？
ちよつ！？ 突きつけないで！？」

Syura

「おっはようございまあつす！！」

クロ

「A a a a a a ! ! ! 」（ジユン）

クロ

「はあつ！？
ゆ、夢か……」

「ひして俺は最悪の目覚めと共に最終決戦へと準備を始めるのだった

決戦前夜 真夜中の説明会（後書き）

おわかりいただけただろうか？

訳の分からぬ設定が他にも幾つか存在する！

そしてそれを皆さんが知っているかどうかは無視して最終決戦へ！

クロ

「やめえいい！..！」

グボア！

ガンブレード

「ではまた次の話で会いましょう」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1895u/>

魔法少女リリカルなのは～最弱の転生者～

2011年10月10日02時16分発行